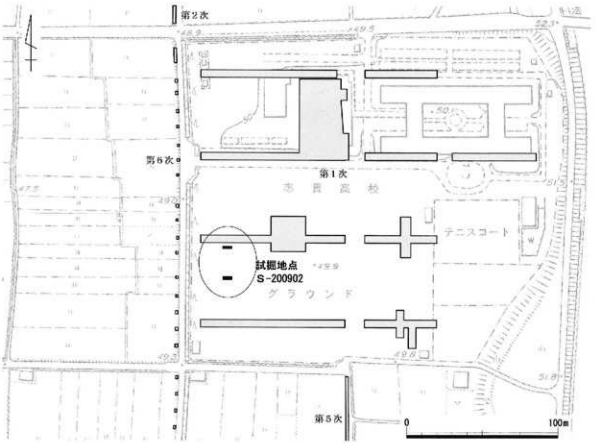
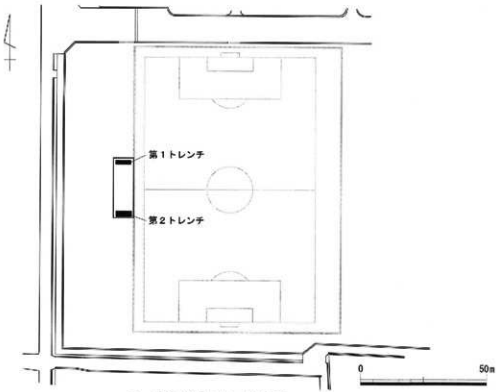
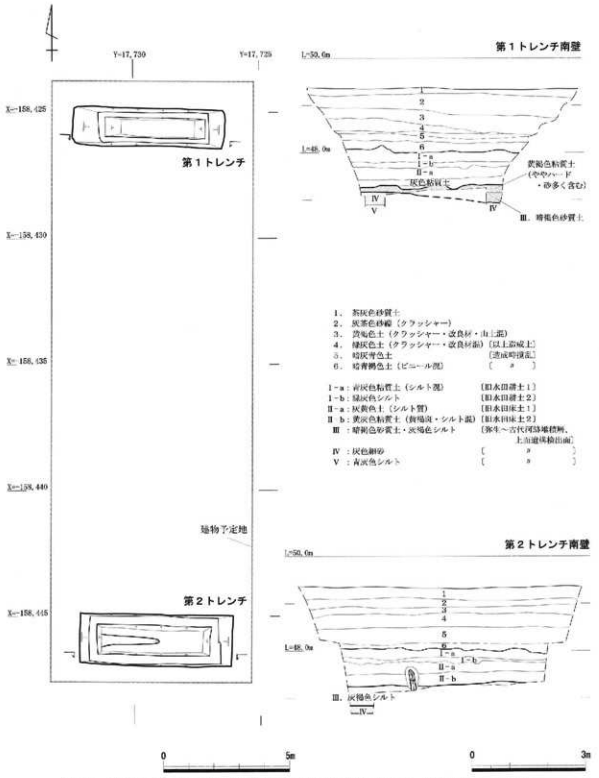


1．調査地位置図（S＝1/2,500）



2．調査区位置図（S＝1/1,500）

第49図　法貴寺北遺跡 試掘調査地及び調査区位置図



第50図　調査地平面図・南壁土層堆積図図（平面図：Ｓ＝1/150、断面図：Ｓ＝1/100）

1．法貴寺北遺跡試掘調査 第1トレンチ全景
（西から）

2．法貴寺北遺跡試掘調査 第1トレンチ
南壁土層堆積状況（北西から）

3．法貴寺北遺跡試掘調査 第2トレンチ
全景（西から）

4．法貴寺北遺跡試掘調査 第2トレンチ
全景（北西から）

5．多遺跡試掘調査
調査前（西から）

6．多遺跡試掘調査 第1トレンチ
全景（南から）

7．多遺跡試掘調査 第3トレンチ
全景（南から）

8．多遺跡試掘調査 第5トレンチ
全景（南から）

3．多遺跡 試掘調査（S-200903）

1．遺跡の概要

多遺跡は、奈良盆地の中央、標高51m前後の沖積地に立地する。弥生時代前期より古墳時代までの集落遺跡として知られる。また、遺跡中央には式内大社多坐弥志理都比古神社（多神社）が鎮座する。この多周辺は古代氏族多氏の根拠地とされ、多神社は多氏の祖である神八井耳命らを祀る。

今回の調査は、農業用水路の建設に先立って遺構分布状況を確認するために実施した。対象となる区間は、多遺跡南東端の東西約100mである。多遺跡第６次調査地の東側隣接地、第９次調査の北側約100mの位置にあたり、東側隣接地では併行して多新堂遺跡第４次調査を実施している。

調査は、工事予定範囲内に５ヶ所の試掘トレンチを設定しておこなった。調査区の規模は東西２m前後、南北0.8m前後で、東側から順に第１トレンチ～第５トレンチとする。

2．調査の成果

（1）層序

調査地の現状は水田である。トレンチにより層序に相違があるが、ここでは第２トレンチの層序を示す。

第Ⅰ層：青褐色粘質土、第Ⅱ層：淡茶灰色粘質土、第Ⅲ層：灰褐色粘質土、第Ⅳ層：暗灰褐色粘質土、第Ⅴ層：褐色土（ややハード）。

第Ⅲ層が近世？、第Ⅳ層が中世の遺物包含層である。

（2）遺構と遺物

第１トレンチ　中世包含層下には全体に褐色粘質土が拡がる。軟質な粘土であり、落ち込み状の遺構が存在する可能性がある。遺物をほとんど含まないため、時期は明らかでない。

第２トレンチ　表土より深さ0.6mでやや締まった褐色土層を検出した。これが古墳時代以降の遺構面となる可能性が考えられる。ただし、検出した範囲では顕著な遺構はみられなかった。

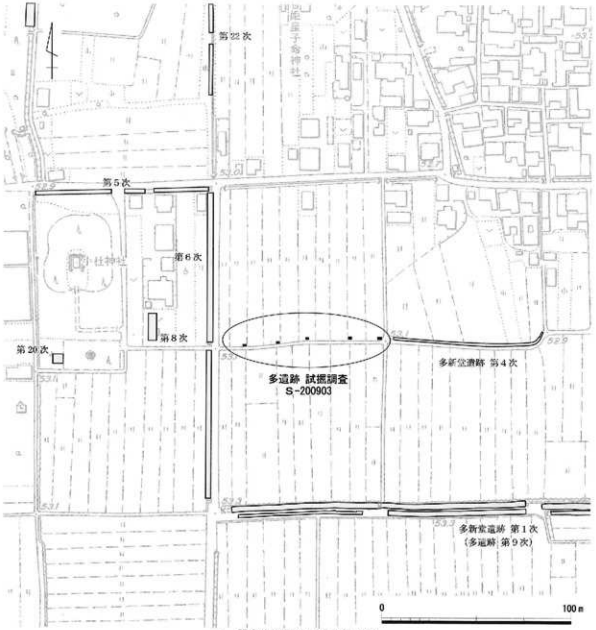
第３トレンチ　表土より深さ0.55mで橙褐色土（ハード）を検出した。これは地山層とみられる。顕著な遺構はみられなかった。

第４トレンチ　表土より深さ0.5mで灰色粘土層を検出した。厚さ0.2m以上あり、中世頃の落ち込みが拡がる可能性がある。

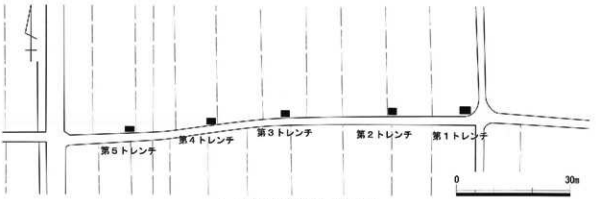
第５トレンチ　表土より深さ0.6mで褐色粘質土層が拡がる。若干の遺物を含む。厚さ約0.2m。その下は暗灰褐色粘土層で、深さは確認していない。これらの層は古墳時代～古代頃の落ち込みあるいは溝となる可能性がある。

3．まとめ

今回の調査では、多遺跡東端の遺構分布状況について断片的な情報を得られたのに留まった。第２・第３トレンチで比較的安定した層を検出しているものの、遺構は確認できず、遺物も僅少であった。第１・第４トレンチは中世前後の落ち込み状の堆積で、第５トレンチは遺構となる可能性のあ

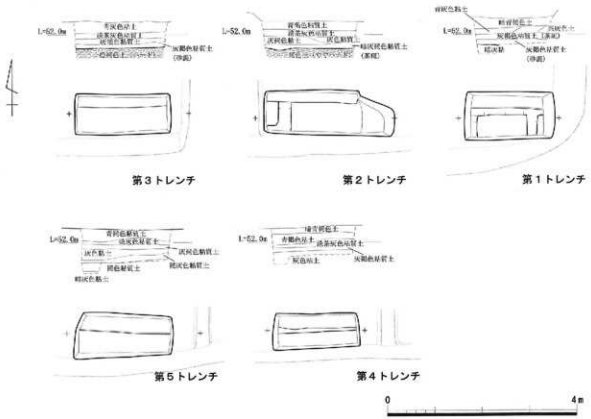


1．調査地位置図（S＝1/2,500）



1．調査区位置図（S＝1/1,500）

第51図　多遺跡 試掘調査地及び調査区位置図



第52図　遺構平面図（S＝1/80）

る層を確認した。

調査の結果、基本的には遺構が散漫な地域であるとみられる。ただし、西側では遺構となる可能性のある堆積層を確認している。工事の掘削は遺構面まで及ばないとみられるが、慎重に対応する必要がある。

4．唐古・鍵遺跡 試掘調査（S-200904）

1．遺跡・既調査の概要

唐古・鍵遺跡は、奈良盆地の中央、標高48m前後の沖積地に立地する。これまで108次を数える調査が実施され、遺跡の範囲および内容について明らかとなりつつある。弥生時代の代表的な集落遺跡であることから、その中心部分について平成11年に国より史跡指定を受けている。

今回、平成21年度より開始された公園整備事業に伴って水路の付け替えが計画された。この水路設計にあたり、遺跡への影響を回避するためのデータ採取を目的とした試掘調査が必要となった。なお、保存を目的とした調査であることから、基本的に遺構面以下の掘削は極力回避し、遺構面の確認にとどめるよう努めた。

2．調査の成果

（1）第1～3トレンチの成果

調査地の現状は水田である。ただし、史跡指定後の買収に伴い、現在耕作はおこなわれていない。

第Ⅰ層：茶灰色粘質土、第Ⅱ層：青灰色土、第Ⅲ層：淡茶灰色土（砂混）、第Ⅳ層：茶灰色土(砂混)、第Ⅴ層：灰褐色土、第Ⅵ層：灰褐色土(砂混)、第Ⅶ層：黒褐色土。

第1～3調査区は、ほぼ同様の堆積であり、中世素掘溝群の検出面となる第Ⅴ層：弥生時代頃の遺物包含層は上面が標高47.7m前後となることが確認できた。主に南北方向の素掘小溝群が拡がる。なお、弥生時代の遺構検出面は標高47.5m付近とみられる。

（2）第4トレンチの成果

現状は擁壁を伴わない土水路である。西側隣接地での調査成果から、古墳墳丘内であることが考えられていた。ただし、現水路により遺構が大きく削られているとみられることから、古墳盛土の残存する高さを明らかにするために調査をおこなった。

第Ⅰ層：青灰色粘土、第Ⅱ層：淡褐色粗砂、第Ⅲ層：黒褐色粘質土(ブロック状)。

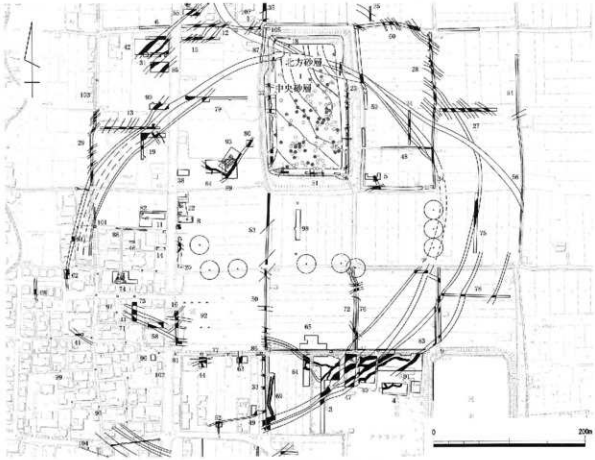
調査の結果、近代～現代の溝内堆積の第Ⅰ・Ⅱ層0.2mの下に、第Ⅲ層の古墳墳丘の盛土が遺存することが明らかとなった。検出標高は47.9mである。

（3）第5・第6トレンチの成果

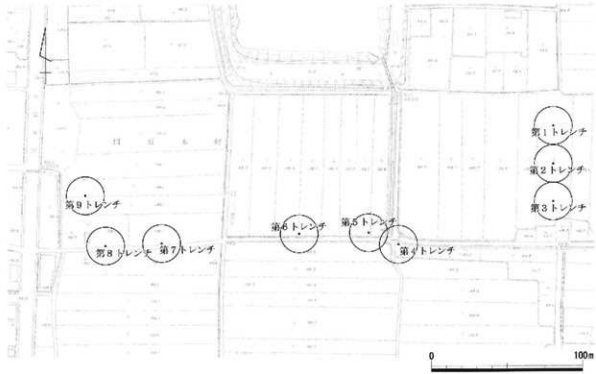
調査地の現状は水田である。ただし、史跡指定後の買収に伴い、現在耕作はおこなわれていない。第5トレンチの東側は一段高い畑地となっており、第76次調査等の成果から古墳墳丘が遺存する可能性も考えられた。

第Ⅰ層：暗茶灰色粘質土 、第Ⅱ層：青褐色土、第Ⅲ層：茶灰色土(砂混)、第Ⅳ層：灰褐色砂質土、第Ⅴ層：黒褐色土。

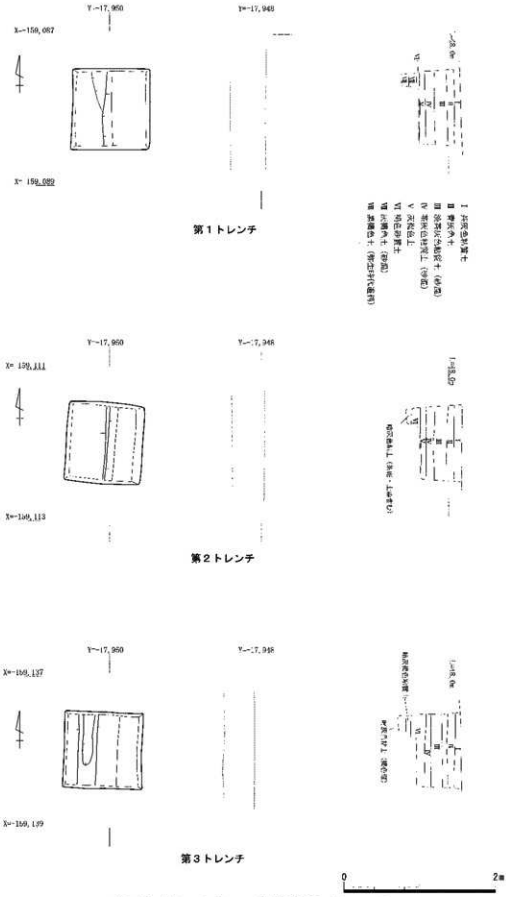
第Ⅳ層上面が中世素掘小溝群を検出する遺構面となる。南北方向の素掘小溝群を検出した。また、Ⅴ層は弥生時代～古墳時代頃の遺構埋土とみられる。なお、第5トレンチでは、第4トレンチのような古墳墳丘盛土とみられる堆積層はみられなかった。周濠部分に相当する可能性もあるが、今回の調査では確認していない。



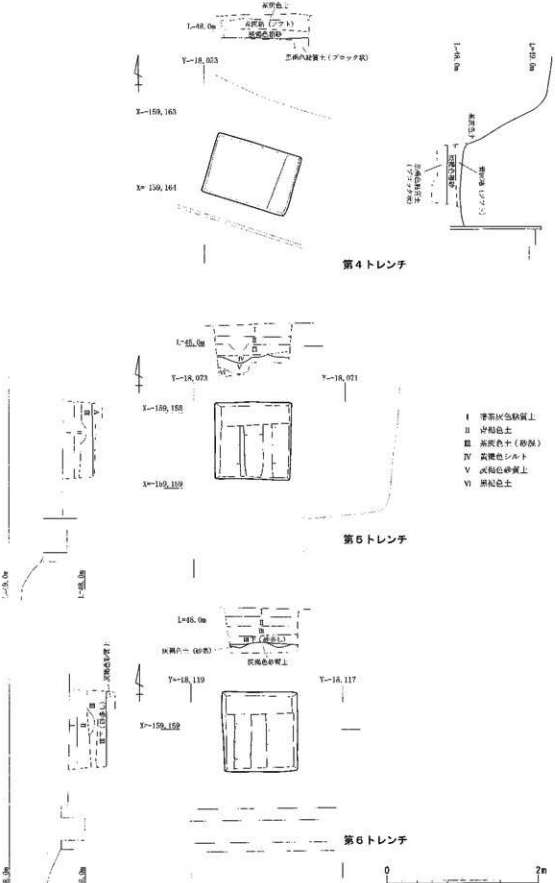
1．調査地位置図（S＝1/5,000）



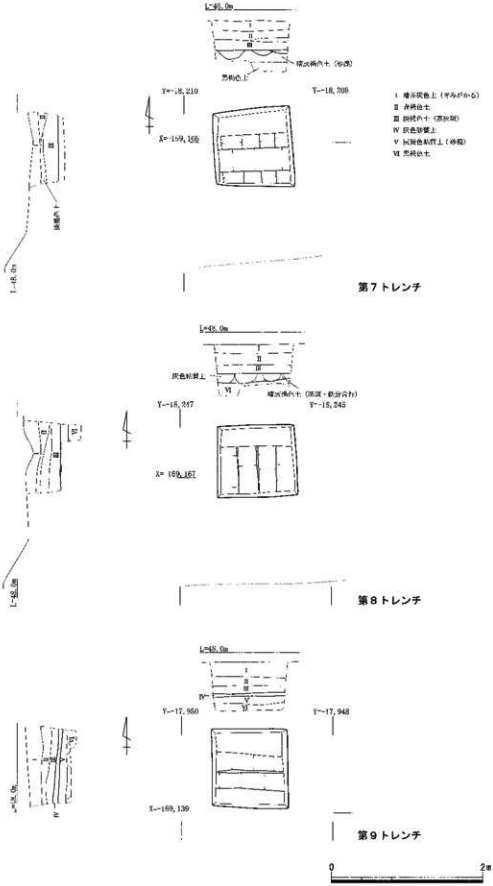
第53図　唐古・鍵遺跡 試掘調査地及び調査区位置図



第51図　第１～３トレンチ遺構平面図（S＝1/50）



第55図　第４～６トレンチ遺構図（S＝1/50）



第56図　第７～９トレンチ遺構平面図（S－1/50）

（4）第7～9トレンチの成果

調査地の現状は水田である。ただし、史跡指定後の買収に伴い、現在耕作はおこなわれていない。

第Ⅰ層：暗茶灰色粘質土、第Ⅱ層：青褐色土、第Ⅲ層：茶灰色土(砂混)：第Ⅳ層：暗灰褐色土（砂混)、第Ⅴ層：黒褐色土。

第Ⅳ層上面が中世素掘小溝群を検出する遺構面となる。東西及び南北の素掘小溝群を検出したが、湧水が激しいために厳密な遺構の把握はできていない。なお、第7～9トレンチの地表面は第5トレンチ等と比べて約0.3m低い。そのため遺構検出面も深いことになる。

3．まとめ

今回の調査では、水路工事の設計に伴う遺構面の把握という目的は達することができた。ただし、遺構の内容等については調査の目的外であるため、今回の調査では把握していない。中世包含層にも多くの遺物が包蔵されていたことから、各調査区には多くの遺構が存在することは明らかであろう。

1．第1トレンチ全景（西から）

2．第4トレンチ全景（西から）

3．第6トレンチ全景（南から）

4．第8トレンチ全景（南から）

第９表　2009年度　工事立会一覧

	遺跡名	調査地	原因者	工事の目的	立会者	調査日	内　容
1	笠神田 (K-200901)	田原本町笠神124-1	個人	古家解体撤去後	清水	2009. 4. 29	西側隣接の基礎部等に立会。掘さ約15cmの範囲で現代耕作土だ。
2	菜花 (K 200902)	田原本町宮森148-1 佳	会員兼農業協同組合	事務所・倉庫の建築	河水	2009. 6. 25	ガソリン地下埋設タンクの撤去に伴うに立会。形成等の変えで土層観察できず。
3	下ツ道、浄水施 (K-200903)	阪原本町宮森 296-1 北側道路東	田原本町長	下水道工事	美谷 清水	2009. 7. 3	人孔設置部分４ヶ所で立会。現代盛の中、層序を確認なし。
4	芥古北 (K 200904)	田原本町芥古 377-1	KDDI（株）	携帯電話基地局地盤の補強	奥谷	2009. 7. 15 7. 16	芥古北遺 18 次調査地点。人頭大で見落とした遺構はなかったこと を確認。
5	笠前 (K-200905)	田原本町笠前 13-1 北側道路敷	田原本町長	下水道工事	清水	2009. 7. 22 7. 23	人孔設置部分４ヶ所で立会。いずれも現盛地棟、遺物出土せず。
6	南野北 (K 200906)	田原本町唐古鍵１丁目 県道通路敷	田原本町長	下水道工事	美谷 清水	2009. 8. 4	人孔設置部分で立会。中世ヶ人頭を確認、遺物出土せず。
7	二条・築上等 (K-200907)	田原本町西洋 197-1、198-2、199-2	奈良県農業協同組合	事務所・倉庫の建築	奥谷	2009. 7. 3	敷地東西の調査二事前協議に立会。中世掘上・床土下は急山盛。
8	唐古・鍵 (K 200908)	田原本町唐古 62-1 水路道路	田原本町長	下水道工事	美谷	2009. 10. 31	人孔設置部分２ヶ所で立会。全て が現代水路による撹乱。
9	一 (K-200909)	田原本町大字池内 （唐古の遺跡外）	田原本町長	下水道工事	清水	2009. 12. 2	遺跡外であったが、施工業者から考古の連絡を受けたため工事立会。人孔設置部分２ヶ所とも現代盛埋ヤ土。
10	富吉北 (K-200910)	田原本町富吉 491-6	田原本町長	下水道工事	清水	2009. 12. 3	人孔設置部分３ヶ所で立会。土事や掘立の遺内による撹乱。南側人孔ではわずかに遺構面が残るが、遺構は確認できず。
11	笠前 (K 200911)	田原本町笠本 165-3 他	田原本町長	下水道工事	清水	2009. 12. 4	人孔設置部分で工事立会。未盛や下次世の撹乱をうける。近代火災に伴う被熱を確認。
12	笹部 (K-200912)	田原本町笠部 34 北側道路	田原本町長	下水道工事	清水	2009. 12. 4	人孔設置部分で工事立会。遺跡縁辺の撹乱を受けて受けた。一部で現代耕作土下に時期不明瓦うち込み層確認。
13	多、多新立 (K 200913)	田原本町 66 番地 南側道路	田原本町長	農業用機器搬出路（地球六路下水）	清水	2009. 12. 15 . 12. 16	多新立遺跡第３次調査地の南側、道路外。耕土下に弥生時代後期末～古期初の土器出を確認。
14	芥古北 (K-200914)	田原本町芥古 205-1、406-6	ならコープ	事務所・倉庫の建替	奥谷	2010. 2. 5	建物基礎部分に立会。掘さ 0.3m 程度の範囲で現代盛土。
15	笹部北 (K-200915)	田原本町笹部 219-2 他	個人	建物の建築	奥谷	2010. 2. 22 2. 23	東隣の調整上下掘削時に立会。整地面の為中世包含層下あり。その東下に埋山層。
16	唐古・鍵 (K-200916)	田原本町鍵 336-40	個人	個人住宅の改築	奥谷	2010. 2. 23 3. 10	住民立ち会い作ろべき基礎工事、ベタ基礎は深さ 10cm の掘削。
17	芥古北 (K 200917)	田原本町笹田 267-4	（株）NTT	無線通信基地局の整備	美谷	2010. 3. 9	アンテナ設置工事時に立会。掘削箇所４箇の下は地山層とみられる黄色粘土層。
18	法水黒 (K-200918)	田原本町唐古 298、299	（株）KDDI	携帯電話基地局地盤の整備	清水	2010. 3. 15	アンテナ設置工事時に立会。基礎掘削は約 0.3m、現代盛土ヤ。

Ⅱ．資料の整理と活用・普及

1．文化財資料の整理・保管

（1）埋蔵文化財の整理・保管

平成21年度の発掘調査・試掘調査等に伴い保管した埋蔵文化財は、遺物コンテナ約121箱とナイロン袋他で、遺物量は前年度より約20箱多い。本年度の調査で全体の3/4を占めているのが多遺跡第22次調査である。この調査は、弥生時代の拠点的な環濠集落である多遺跡の東側でおこなったもので、弥生時代の土器が多量であったことによるものである。その他は、小規模な調査や古墳時代以降の調査であったため、数箱程度におさまった。この多遺跡の調査は１月から３月にあたり、多量に出土したため、年度内での洗浄は完了せず、次年度に持ち越した。

これとは逆に、前年度から持ち越した秦楽寺遺跡第４次調査で出土した玉作り関係遺物の土壌水洗と玉の選別作業は、緊急雇用創出事業の採択を受け、11月から３月まで実施し、全体の2/3にあたる140箱を完了した。ただし、残り70箱は次年度に実施することになった。この遺跡以外の遺物洗浄は終了し、分別収納をおこなった。

【埋蔵文化財保管数】

調査番号	遺跡名	調査次数	遺物明細	遺物量	
				現場後	洗浄後（土器・瓦）
H21-01	宮古北遺跡	第15次調査	土師器・須恵器・近世陶磁器・木製品・石器等	4箱	3箱
H21-02	十六面・薬王寺遺跡	第26次調査	近世陶磁器・瓦等	1箱	1袋
H21-03	羽子山遺跡	第35次調査	弥生土器・土師器・須恵器・埴輪等	3箱	4箱
H21-04	筋違遺跡	第２次調査	土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器等	1箱	1箱
H21-05	平田遺跡	第１次調査	土師器・須恵器・瓦器・中世陶磁器等	1箱	1箱
H21-06	羽子田遺跡	第36次調査	土師器・須恵器・埴輪等	5箱	7箱
H21-07	唐古・鍵遺跡	第107次調査	弥生土器・土師器等	1箱	1箱
H21-08	唐古・鍵遺跡	第108次調査	弥生土器・土師器・近世陶磁器・瓦等	2箱	2箱
H21-09	多新堂遺跡	第３次調査	土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器等	2箱	1箱
H21-10	寺内町遺跡	第12次調査	土師器・瓦質土器等	1箱	2袋（小）
H21-11	多新堂遺跡	第４次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・近世陶磁器等	2箱	2箱
H21-12	多遺跡	第22次調査	弥生土器・土師器・須恵器・瓦質土器・石器・銅銃・銭貨等	92箱	洗浄途中
H21-13	保津・宮古遺跡	第37次調査	土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・近世陶磁器・瓦等	3箱	7箱
S-200901	清水風遺跡	試掘調査	弥生土器・須恵器	4袋(小)	4袋（小）
S-200902	法貴寺北遺跡	試掘調査	弥生土器・土師器・須恵器	1箱	3袋（小）
S-200903	多遺跡	試掘調査	土師器・須恵器・近世陶磁器等	1箱	6袋（小）
S-200904	唐古・鍵遺跡	試掘調査	弥生土器・土師器・須恵器等	1箱	1箱

※遺物量の表記の箱とは、長さ56cm・幅36cm・深さ15cmの容量を標準として換算している。また、袋(小)は、ナイロン袋の中・小の大きさを表している。

また、木器の保存処理事業では、平成19年度に実施した十六面・薬王寺遺跡第24次調査で出土した木棺身・蓋を平成21・22年の2ヶ年継続でおこなっている。この他、この調査で出土した髭櫛1点、第21次調査で出土した中世の円形曲物（井戸枠転用品）4点も高級アルコール法による処理方法で委託した。直営でも秦楽寺遺跡第4次調査で出土した中世の井戸に転用された桶の板材をラクチトールによる処理方法でおこなった。

【保管遺物種と数量】

調査番号	遺跡名	調査次数	土製品	焼土塊	木製品	石製品	骨製品	金属器	銭貨	ガラス	木	石	獣骨・貝	種子	炭化米
H21-01	宮古北遺跡	第15次調査	－	8	25	15	1	1	－	－	1	2	1	○	1
H21-02	十六面・薬王寺遺跡	第26次調査	1	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
H21-03	羽子田遺跡	第35次調査	－	2	4	10	－	－	－	1	－	4	16	○	－
H21-04	筋違遺跡	第2次調査	－	1	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－
H21-05	平田遺跡	第1次調査	－	2	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－
H21-06	羽子田遺跡	第36次調査	1	2	－	－	－	－	－	－	－	1	－	○	－
H21-07	唐古・鍵遺跡	第107次調査	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
H21-08	唐古・鍵遺跡	第108次調査	－	1	－	1	－	－	－	－	－	－	－	4	1
H21-09	多新宮遺跡	第3次調査	－	－	9	2	－	1	－	－	－	2	－	7	－
H21-10	寺内町遺跡	第12次調査	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
H21-11	多新宮遺跡	第4次調査	－	2	3	6	－	－	－	－	－	4	－	2	－
H21-12	多遺跡	第22次調査	7	○	[4]	98	－	7	3	－	[1]	[1]	○	○	○
H21-13	保津・宮古遺跡	第37次調査	1	－	2	9	－	1	－	－	－	8	－	－	－
S-200901	清水風遺跡	試掘調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
S-200902	法貴寺北遺跡	試掘調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
S-200903	多遺跡	試掘調査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
S-200904	唐古・鍵遺跡	試掘調査	－	－	－	36	－	－	－	－	－	2	－	－	－

※少量遺物は、複数次数あるいは複数遺跡をまとめて分別収納しているため、コンテナ量で表すことができないので、有（○）無（－）で示した。また、数量は点数であるが、［］内の数字はコンテナ量である。

【図面・写真の保管数量】

調査番号	遺跡名	調査次数	図面		35mm			
					カラーポジ		モノクロネガ	
			現場	遺物	シート数	コマ数	シート数	コマ数
H21-01	宮古北遺跡	第15次調査	15	1	11	211	6	209
H21-02	十六面・薬王寺遺跡	第26次調査	3	−	1	18	1	17
H21-03	羽子田遺跡	第35次調査	30	5	9	165	5	164
H21-04	筋違遺跡	第２次調査	4	−	3	60	2	60
H21-05	平田遺跡	第１次調査	4	−	2	35	1	34
H21-06	羽子田遺跡	第36次調査	5	−	4	67	2	67
H21-07	唐古・鍵遺跡	第107次調査	3	−	1	18	1	18
H21-08	唐古・鍵遺跡	第108次調査	3	−	3	57	2	53
H21-09	多新堂遺跡	第３次調査	15	1	7	138	4	139
H21-10	寺内町遺跡	第12次調査	2	−	1	14	1	14
H21-11	多新堂遺跡	第４次調査	13	−	7	133	4	133
H21-12	多遺跡	第22次調査	57	−	26	511	14	507
H21-13	保津・宮古遺跡	第37次調査	6	−	4	67	2	67
S-200901	清水風遺跡	試掘調査	4	−	2	32	1	32
S-200902	法貴寺北遺跡	試掘調査	5	−	2	35	1	35
S-200903	多遺跡	試掘調査	2	−	2	35	1	36
S-200904	唐古・鍵遺跡	試掘調査	3	−	6	106	3	105
計			174	7	91	1,702	51	1,690

（2）資料の撮影と写真・図面のデジタル化

写真撮影は、町内の各遺跡から出土した木製品や特殊土器等と企画展、町指定文化財候補物件に伴う遺物の撮影をおこなった。また、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示品である唐古・鍵遺跡の弥生土器（記号土器）と補厳禅寺納帳の写真デジタル化をおこなった。

【写真撮影一覧】

種　類	資料名・内容	フィルム（4×5）	カット数	備　考
考古遺物	唐古・鍵遺跡　木製品（橋脚ほか） 保津・宮古遺跡　木製品（曲物） 宮古北遺跡　上師器・木製品（円形木製品） 宮古前遺跡　木製品（用途不明木製品） 十六面・薬王寺遺跡　木製品（曲物ほか） 秦楽寺遺跡　木製品（井戸枠） 阪手北遺跡　木製品（杭）	カラーポジ モノクロネガ	2 43	報告書用
	唐古・鍵遺跡　弥生土器（記号土器）	カラーポジ	35	秋季企画展
古文書	補厳禅寺納帳	カラーポジ	24	
計		カラーポジ モノクロネガ	61カット 43カット	

【デジタル化一覧】

内　容		カラーポジ（4×5）	成果品
古文書	補厳禅寺納帳	25枚	DVD1枚
唐古・鍵遺跡　記号土器	秋季企画展写真	30枚	DVD1枚
計		55枚	DVD2枚

（3）図書の受領

平成21年度は、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムに関係諸機関・個人（309機関等）から1,070冊の図書の寄贈を受けた。また、図書の購入は12冊である。

【受領図書】

分類	報告書	概報	現説資料	年報	館報	図録	パンフレット	紀要	会報
冊数	564	59	3	57	22	78	44	71	6

分類	論文集	たより	発表資料	単行本	雑誌	目録	その他	合計
冊数	6	99	8	10	7	3	33(1)	1,070

※上記冊数には、2部以上の寄贈99冊を含んでいない。　※（ ）の数字は、DVD1枚の内数である。

2．遺跡・文化財の保護

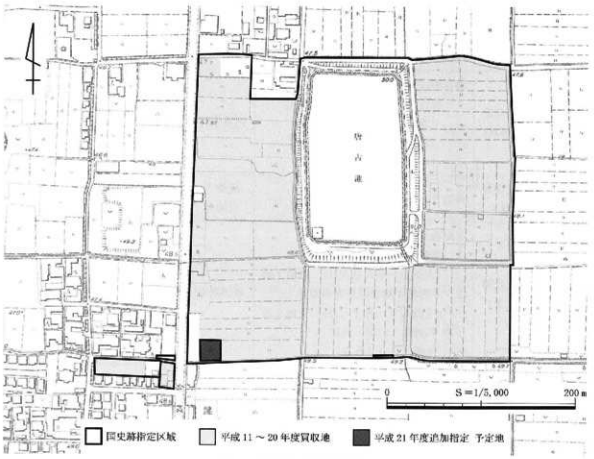
（1）史跡の追加指定

唐古・鍵遺跡は、平成11年１月27日、唐古池を中心とする範囲の98,957.73㎡（159筆）について国の史跡指定を受けた。また、平成14年12月19日には、鍵地区において検出した弥生時代中期初頭の大型建物跡部分を含む1,857.93㎡（鍵248番２他７筆）を、平成20年３月28日には１次指定を受けた南端の一部と平成14年の追加指定を受けた土地の東側隣接地442.18㎡について、追加指定を受けた。

平成21年度は、第１次指定地の西南隅の一画について地権者の同意が得られたので、文化庁へ意見具申書を提出したが、告示は平成22年度の予定である。

【史跡の指定面積と公有化面積】

指定面積	公有化面積	
102,181.98㎡	唐古　50番２ほか計78筆	69,375.8㎡
	鍵　225番１ほか計51筆	



唐古・鍵遺跡の指定地状況

（2）町指定文化財

平成21年度は、田原本町文化財保護審議会を開催し、町指定文化財の候補として田原本町味間の福厳寺所有の納帳とし、調査・写真撮影をおこなった。

【田原本町文化財保護審議会　委員】

分　野	氏名	備考
建　築	林 清三郎	委員長
考古学	石野 博信	
考古学	寺澤　薫	
歴　史	和田　萃	
歴　史	谷山 正道	
彫　刻	鈴木 喜博	

福厳禅寺納帳

【町指定文化財一覧】

台帳番号	種　別	名称及び員数	所有者	時　代	指定年月日
1	有形文化財（考古資料）	「楼閣」が描かれた土器片　3点 唐古・鍵遺跡第47・77次調査出土	田原本町	弥生時代（中期）	平成20年3月24日
2	有形文化財（考古資料）	翡翠製勾玉と鳴石容器（蓋付）　一式 唐古・鍵遺跡第80次調査出土 1.翡翠製勾玉　2点 1.鳴石容器　1点 1.容器蓋（土器蓋片）1点	田原本町	弥生時代（中期）	
3	有形文化財（彫刻）	木造十一面観音立像　一躯	法貴寺自治会	室町時代 （天文10年／1541年）	
4	有形文化財（古文書）	平野権平(長泰)宛豊臣秀吉感状 1．平野権平宛羽柴秀吉判物 （天正十一年六月五日）折紙１通 2．平野権平宛豊臣秀吉朱印状 （文禄四年八月十七日）折紙１通 附 収納箱　内箱・外箱 包紙（２は２枚有り）	福岡洋介	1．安土桃山時代 （天正11年／1583年） 2．安土桃山時代 （文禄４年／1595年）	平成20年12月17日

3．講座

成人向けの講座として、考古学実践講座の初級編と講演を計５回開催した。また、小中学生向けの体験講座を夏と冬に、親子参加体験イベントを秋に開催した。

【考古学実践講座】

実施日	内容		講師	受講者数
6月13日（土）	初級編	考古学入門	本館　河森	33名
7月11日（土）		遺跡を見る	本館　藤田	
8月8日（土）		遺物を観察する	本館　藤田	
2月20日（土）	大和の弥生集落研究最前線	大福遺跡の調査	桜井市教育委員会 丹羽　恵二氏	33名
3月20日（土）		平等坊・岩室遺跡の調査	大理市教育委員会 石田　大輔氏	30名
5日間		5講座		96名

考古学実践講座では大和の弥生集落研究最前線と題し、県内の弥生時代に営まれた遺跡の最新情報についての講演を、各教育委員会より講師を招いておこなった。

２月20日の「大福遺跡の調査」では、坪井・大福遺跡はひとつの遺跡でありながら行政的区分により統合的な調査がおこなえないという問題がある点、またその隣にある大福遺跡が墓域から二次的な集落へと変化していく点について、両遺跡の関係に踏み込んだ解説があった。出土した各種青銅器鋳造関連遺物や木甲、炭化米などの詳しい紹介があった。

３月20日の「平等坊・岩室遺跡の調査」では、環濠と集落範囲の拡大を、時期を追って遺構や遺物の写真を提示しながらの解説があった。また、弥生時代後期になると集落内部に方形の溝で区画した場所がつくられており、この時期になんらかの有力者（首長層）が出現していた可能性を示唆されている。

大和の弥生集落研究最前線は平成22年度の考古学実践講座にも継続する予定である。

丹羽　恵二氏　講演

石田　大輔氏　講演

【チャレンジ子ども弥生探検隊】

実施日	内容		会場	参加者数
7月22日（水）	体験講座	埴輪づくりに挑戦	陶芸室	24名
8月6日（木）		埴輪づくりに挑戦	陶芸室	30名
8月19日（水）		勾玉づくりに挑戦	陶芸室	24名
12月13日（日）		スタンプづくりに挑戦	工作室	26名
11月28日（土）	弥生生活体験イベント	お米の脱穀・赤米炊飯・火熾し	唐古・鍵遺跡現地	親子33名
5日間		7メニュー		137名

埴輪づくりに挑戦

勾玉づくりに挑戦

スタンプづくりに挑戦

弥生生活体験イベント

4．学校教育等への支援

（1）小学校出前授業・教材貸出

町内小学校からの依頼を受け、総合的学習の時間及び社会科・家庭科等の授業として、以下内容の出前授業をおこなった。今年度は町内の５小学校全てにおいて実施した。また、初めての試みであったが、これらの児童の作品や成果を「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」として２月に開催し、238名が観覧した。

【出前授業】

実施日	学校・学年	児童数	内　容
4月24日	北小学校　6年	2クラス（46名）	ミュージアム見学
5月18日			土器づくり
5月29日			火熾し・赤米炊飯・脱穀
6月25日			土器の野焼き・勾玉づくり
6月1日	東小学校　6年	1クラス（12名）	火熾し・赤米炊飯
7月14日			ミュージアム見学
10月27日			勾玉づくり
6月12日	南小学校　6年	2クラス（61名）	勾玉づくり
10月23日			土器づくり
11月19日			土器の野焼き・火熾し
6月15日	平野小学校　6年	3クラス（70名）	勾玉づくり
11月5日			土器づくり
12月4日			土器の野焼き・火熾し
4月15日	田原本小学校　6年	4クラス（119名）	ミュージアム見学
5月21日			火熾し・赤米炊飯
9月7・8日			土器づくり
10月13日			土器の野焼き
18日間	12クラス（延べ1,208名）		メニュー延べ24

小学校出前授業（東小学校）

小学校出前授業（田原本小学校）

（2）中学校職場体験学習

中学生の職場体験学習として、田原本中学校・北中学校の生徒を受け入れ、文化財保存課と唐古・鍵考古学ミュージアムで体験学習を実施した。

【体験学習】

期　間	学　校　名	内　容	人　数
11月4・5・6日	田原本中学校	土器洗浄・遺物選別・石器の整理 土器拓本・ミュージアム受付	3名
11月10・11・12日	北中学校		3名
6日間	2学校	延べ10メニュー	延べ18名

中学校職場体験（田原本中学校）

中学校職場体験（北中学校）

（3）大学の学外授業

博物館実習として、大学生4名を受け入れ、下記内容の授業をおこなった。また、奈良大学の通信教育の課外授業として、4回受け入れた。

【博物館実習】

実　施　日	内　容	受講者数
9月1日（火）	ミュージアムの概要（ガイダンス）・夏季ミニ展示の片付け	同志社大学　3名 京都女子大学　1名 計　4名
9月2日（水）	夏季ミニ展示の片付け 遺物収納の仕方と展示遺物カードの作成	
9月3日（木）	遺物の写真撮影方法・子供向け解説シートの作成	
9月4日（金）	ホームページ・解説パネル・チラシの作成	
4日間		延べ16名

【学外授業】

実　施　日	内　　容	人　数
7月19日（日）	奈良大学　通信教育課程「文化財学講読Ⅱ」 唐古・鍵遺跡の現地説明 唐古・鍵考古学ミュージアムの概要説明・展示品解説	117名
8月29日（土）		54名
2月13日（土）		28名
3月13日（土）		28名
4日間		計227名

（4）講師の派遣

上記以外に、教育委員会等の事業として下記のとおり職員を派遣した。

実施日	講座名等	人数	演　題	講　師
10月25日（日）	秋季特別展 「銅鐸 弥生時代の青銅器鋳造」研究講座 （橿原考古学研究所附属博物館）	約200名	唐古・鍵遺跡の 青銅容鋳造遺物について	藤田 三郎

博物館実習

5．刊行物一覧

本年度は、下記４点の書物を印刷した。

【刊行物名】

書　籍　名	発行日	部　数	内　容
唐古・鍵考古学ミュージアム 春季企画展図録『寺内町と陣屋の考古学』	2009年４月	3,000部	田原本寺内町や平野氏陣屋・芝陣屋・柳本陣屋等を紹介 平成20年度の発掘調査成果
唐古・鍵考古学ミュージアム 秋季企画展図録『弥生グラフィティ―』	2009年10月	3,000部	唐古・鍵遺跡から出土した弥生土器に記号が描かれた記号（文）土器を紹介
唐古・鍵考古学ミュージアム 『ミュージアムコレクション　Vol.3』	2010年３月	2,500部	町広報に掲載したミュージアムコレクションNo.51～64の補訂版・他７編
『田原本町文化財調査年報18　2008年度』	2010年２月	700部	平成20年度の文化財事業の報告

なお、印刷発注はおこなわなかったが、下記の展示解説シートを作成し、唐古・鍵考古学ミュージアムのホームページ「展示品紹介」のコンテンツに追加した。

夏季ミニ展示解説シート

『田原本の遺跡Vol.5　十六面・薬王寺遺跡―弥生から近世までの複合遺跡―』（2008年７月）

6．資料の活用

（1）資料の貸出

平成21年度は、7機関に延べ9遺跡292点の遺物等を貸出した。貸出内容は、唐古・鍵遺跡の出土品が大半である。唐古・鍵遺跡では、青銅器鋳造関連遺物の大量貸出があった。また、絵画土器の貸出も多い。

【資料貸出一覧】

貸出先／展覧会名　期間	遺跡名	資料名	点数
古代山雲歴史博物館／『輝く出雲ブランド―古代出雲の王作り―』 平成21年3月7日～5月18日	唐古・鍵遺跡	ヒスイ製勾玉（大・小）2・褐鉄鉱容器・蓋2・ヒスイ製丸玉2・水晶製丸玉4	10
宏土城考古博物館／『大型建物から見えてくるもの―弥生時代のまつりと社会―』 平成21年4月25日～6月14日	唐古・鍵遺跡	大型建物柱穴出土土器24・大型建物群1・大型井戸出土祭祀遺物19・器台1・絵画土器（楼閣・大型建物ほか）8	54
	清水風遺跡	絵画土器（建物レプリカ）1	
大阪府立弥生文化博物館 『弥生建築―卑弥呼の住まい―』 平成21年4月25日～6月7日	唐古・鍵遺跡	壁土1・杉皮1	2
橿原考古学研究所附属博物館 『銅鐸－弥生時代の青銅器生産－』 平成21年10月3日～11月23日	唐古・鍵遺跡	土製銅鐸鋳型外枠30・土製武器鋳型外枠70・不明土製鋳型外枠1・高坏形土製品39・送風管29・砥石11・鉱滓・真土3・真土付土器1・銅塊2・銅滴1・銅鐸片1・石製銅鐸鋳型2・被熱土器5・実験考古学品21	216
桜井市立埋蔵文化財センター 『弥生後期の集落史』 平成21年10月7日～12月6日	唐古・鍵遺跡	鉄斧1・鉄鏃1	2
松山市考古館／『ハニワの世界』 平成21年10月11日～11月29日	保津岩田古墳	家形埴輪1	3
	菅沢山2号墳	馬形埴輪1・馬曳き人物埴輪1	
尼崎市立田能資料館／『弥生人』 平成21年11月3日～12月13日	唐古・鍵遺跡	人形土製品1・絵画土器2（手を挙げる人物・盾と戈をもつ人物）・ヒスイ製勾玉1・弥生人複顔模型1	5
7機関　延べ会期期間日数　374日	延べ9遺跡		292点

【種別による貸出点数】

土器	埴輪	土製品焼土	石器	木器	金属器	骨角器	ガラス	骨・貝	種・穀物	レプリカ模型	総点数
47	3	174	23	2	6	0	-	14	-	23	292点

【資料の継続貸出】

貸出先／展示名／期間	遺跡名	資料名	点数
香芝市二上山博物館　常設展示 【貸出期間】平成20年4月1日～平成21年3月31日	唐古・鍵遺跡	弥生土器壺・甕・高坏・槍先形石器	4点
大阪府立弥生文化博物館　常設展示 【貸出期間】平成20年4月1日～平成21年3月31日	唐古・鍵遺跡	土弾	3点
2件	延べ2遺跡		7点

（2）写真掲載・撮影

写真の貸出及び掲載（転載含む）は48件208点であった。写真掲載の内容は、唐古・鍵遺跡の出土遺物や唐古・鍵考古学ミュージアム内の展示風景の利用度が高い。

【写真掲載・撮影一覧】

貸出先	掲載書籍	冬称（遺跡名）	資料名	点数
安土城考古博物館	特別展「大型建物から見えてくるもの―弥生時代のまつりと社会―」展示解説ビデオ	唐古・鍵考古学ミュージアム	まつりの風景ジオラマ	1
奈良県ビジターズビューロー	「知れば知るほど奈良はおもしろい」	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵考古学ミュージアム展示風景	1
㈱マルナカ技研	研修	唐古・鍵遺跡	ミュージアムビデオ映像	1
田原本町文化団体連絡協議会	文化祭参加賞		楼閣くんキャラクター	1
補芝宏	個人ホームページ	唐古・鍵遺跡	鳥装の巫女が描かれた土器	2
鍬柄俊夫	「大学サイエンスフェスタ」パネル・映像展示	唐古・鍵遺跡	弥生土器（流水文）	1
奈良テレビ	DVD「大きな和の国・日本」	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵遺跡復元型像図・唐古・鍵遺跡環濠集落復元イラスト	2
㈱共同テレビ	テレビ東京系列「上曜スペシャル　古代ミステリーの旅」奈良の旅編	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵考古学ミュージアム館内	1
鈴木久男	講義資料	唐古・鍵考古学ミュージアム	床下展示・唐古・鍵考古学ミュージアム展示風景(4)	5
徳島市シルバー人材センター（徳島市立考古資料館）	図録「絵画が語る弥生人の世界」	唐古・鍵遺跡	絵画土器47・記号土器4・銅鐸形土製品1・人形土製品1	37（転載）
		清水風遺跡	絵画土器4	
尼崎市立田能資料館	図録「弥生人」	唐古・鍵遺跡	弥生人復顔模型・復顔過程・人骨出土状況	3

橿原考古学研究所附属博物館	図録『銅鐸―弥生時代の青銅器生産―』	唐古・鍵遺跡	土製銅鐸鋳型外枠・土製武器鋳型外枠・不明土製鋳型外枠・窯坏形土製品・送風管・砥石・石製銅鐸鋳型ほか	26
田原本町商工会	地域商品券・チラシ		橿閣くんキャラクター	1
ＮＨＫ西山放送局	テレビ番組『ニュースコア６』	唐古・鍵遺跡	手を挙げる鳥装のシャーマン塑型	1
歴史教育者協議会	『歴史地理教育』７月増刊号	唐古・鍵遺跡	木製農具・粉圧痕土器・穂束・ドングリピット・農作業の１年イラスト・森本六爾写真	6（転載）
㈱カリタジアン	『日本全国ご当地キャラクター図鑑』２（仮題）		橿閣くんキャラクター	1
東京法令出版㈱	中学歴史資料集『グラフィックワイド歴史』	唐古・鍵遺跡	土製銅鐸鋳型外枠	1
共同精版印刷㈱	『ＴＳＲ情報』夏季特集号		橿閣くんキャラクター	1
㈱大夢人　temjin	週刊『歴史のミステリー』91号	唐古・鍵遺跡	復元橿閣遠景・唐古・鍵遺跡の環濠集落復元イラスト・青銅器鋳造関連遺物集合・青銅器鋳造風景イラスト・復元橿閣・橿閣が描かれた絵画土器・鳥装の巫女が描かれた土器・木製農具集合・第40次調査検出大環濠・石鏃と弓ほか集合	10
	『歴史浪漫の道　日本地図』（仮題）	唐古・鍵遺跡	復元橿閣	1（転載）
㈱第一学習社	高等学校日本史副教材『最新日本史図表　二訂版』	唐古・鍵遺跡	弥生土器（鉢）	1
㈱ニュートンプレス	『日本人の起源』（仮）	唐古・鍵遺跡	橿閣が描かれた絵画土器	1
㈱吉川弘文館	『史跡で読む日本歴史１　列島文化のはじまり』	唐古・鍵遺跡	第40次調査検出大環濠	1（転載）
財松山市生涯学習振興財団	図録『ハニワの世界』	保津岩田古墳	家形埴輪	6
		笠鉾山2号墳	馬形埴輪(2)・馬曳き人物埴輪(2)・馬形・馬曳き人物埴輪集合(1)	
福島勝子	学術論文「Acta Asia」	唐古・鍵遺跡	橿閣が描かれた絵画土器(1)・鳥装の巫女が描かれた土器(6)	7

桜井市立埋蔵文化財センター	図録『弥生後期の集落史』	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵遺跡第47次調査成果	1
㈱桜山市生涯学習振興財団	特別展『ハニワの世界』ポスター・チラシなど	桜井山2号墳	猪輸出土状況(2)・発掘状況(1)・鳥形埴輪(2)	5
㈱新人物往来社	月刊『歴史読本』	唐古・鍵遺跡	第61次調査航空写真・唐古・鍵遺跡復元イラスト・第47次調査航空写真・第47次調査検出環濠・復元模型・第74次調査検出大型建物跡・絵画土器・大形巨転用井戸枠・木棺墓・楼閣が描かれた絵画土器・鳥装の巫女が描かれた土器(2)・楼閣鉢容器と納められた銅矛・銅鏡勾玉・土製模型集合・古墳から選ばれた器台	20
		清水風遺跡	盾と戈を持つ人物が描かれた土器	
		唐古・鍵考古学ミュージアム	第2展示室・床下展示・手を挙げる鳥装のシャーマン模型・盾と戈を持つシャーマン模型	
朝鮮話社出版サービスセンター	「弥生に生まれた鳥神　阿治志貴高日根考」	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた絵画土器	3(転載)
		八尾九原遺跡	下向きの渦巻き飾りをもつ建物絵画土器	
		清水風遺跡	鳥のとまる楼閣絵画土器	
㈱平城遷都1300年記念事業協会	開渡型入場券「せんとくんクーポン」	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵考古学ミュージアム外観	1
國學院大學　伝統文化リサーチセンター資料館	図録『まつりのそなえ―餅食たてまつるもの…』	唐古・鍵遺跡	第37次調査出土土器集合・第37次調査出土状況	2
㈱メルプランニング	『時代別日本の歴史　1巻　大むかしのくらし』	唐古・鍵遺跡	卜骨(シカ)・卜骨(イノシシ)・弥生土器集合	3
奈良印刷㈱	『ガイドブック　奈良の遺跡案内』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた絵画土器	1
㈱学文書院	『社会科資料集』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた絵画土器	1
㈱淡交ネットワーク	『邪馬台国近江説　古代政治の点と線』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1
㈱コミニケ	小冊子『大和を公こう』	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1
宮家美術	『ガイドブック　奈良の遺跡案内』	唐古・鍵考古学ミュージアム	唐古・鍵考古学ミュージアム外観・展示室風景	5
		唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた絵画土器	
		羽子田1号墳	盾持人埴輪	
		桜井山2号墳	鳥形・馬曳き人物埴輪	

㈱千象恋	週刊『戦国武将データファイル』第5号	個人蔵	平野俊平（兵衛）宛徴証書写感状	1
㈱東京書籍	中学校社会科教科書『新しい社会歴史』	唐古・鍵遺跡	弥生土器（甕）・弥生土器（高杯）	2
㈱ベネッセコーポレーション	2010年度進研模試大学入試総合力マーク模試6月（日本史B）	唐古・鍵遺跡	復元楼閣	1
日本文教出版㈱（代行　㈱パルスクリエイティブハウス）	中学校社会科教科書『中学社会歴史的分野』	唐古・鍵遺跡	鳥装の巫女が描かれた土器	1（再掲載）
文化庁文化財伝統文化課	ウェブサイト「国指定文化財等データベース」・「文化遺産オンライン」	唐古・鍵遺跡	唐古・鍵遺跡風景	4
		羽子田1号墳	牛形埴輪	
			今里の鉦巻き・鐸の蛇巻き	
文化庁文化財部記念物課	『発掘調査の手引き　集落遺跡発掘編』	唐古・鍵遺跡	木器貯蔵穴	1
倉橋みどり	『あかい奈良』2010年春号	唐古・鍵遺跡	鍛鉄鉇容器と納められた鍛冶製鉄勾玉	1
㈱旅山閣	『季刊考古学』111号	唐古・鍵遺跡	石斧集合	1
地域情報ネットワーク㈱	『石井寿夫の古事記考察（仮題）』	唐古・鍵遺跡	弥生土器・記号土器・打製石器集合・磨製石器集合・有開器持渡関連遺物・楼閣が描かれた絵画土器	6
㈱山川出版社	『2010年度第1回歴史能力検定5級歴史入門（準会場用）試験問題』	唐古・鍵遺跡	環濠遺構	1（転載）
博古研究会	『博古研究』第39号	唐古・鍵遺跡	勾玉形土製品	1（紙載）
文英堂	『弥生興亡女王卑弥呼の登場』	唐古・鍵遺跡	楼閣が描かれた絵画土器・絵画土器・復元楼閣	5（紙載）
		清水風遺跡	絵画土器・土器絵画（杓）復元図	
48件		延べ56遺跡等		208点

（3）資料調査

本町所有・保管遺物について、下記の者による資料調査があった。調査は、唐古・鍵遺跡の出土品が中心である。

【資料調査】

調査日	調査者	資料名
4月21日	木下尚子（熊本大学）	唐古・鍵遺跡　褐鉄鉱容器に納められた1号・2号翡翠製勾玉
6月16日	大賀克彦（京都大学院）	唐古・鍵遺跡　第19次調査出土玉類 保津・宮古遺跡　第26次調査出土玉類
7月10・13・14日	松田拓也（花園大学院）	唐古・鍵遺跡　第65・69・94次調査出土土器
8月27・28日	山田昌恵（京都橘大学院）	唐古・鍵遺跡　卜骨
9月15日	増田浩太・劉治国 （島根県文化財課　古代文化センター）	唐古・鍵遺跡　青銅器鋳造関連資料
11月16～18日	谷上真由美（立命館大学院）	唐古・鍵遺跡　弥生土器 清水風遺跡　弥生土器
12月8日	河野摩耶	唐古・鍵遺跡　朱色顔料付着土器
12月17～19日	小林弘博（広島大学大学院）	唐古・鍵遺跡　高坏形土製品 送風管片
1月22日	増田浩太・劉治国 （島根県文化財課　古代文化センター）	唐古・鍵遺跡　土製鋳型外枠
2月5日	李陽洙（韓国国立慶州博物館）	唐古・鍵遺跡　土製鋳型外枠類
2月25日	佐久間豊（千葉県立中央博物館）	唐古・鍵遺跡　第8次調査出土笊 第13次調査出土笊
3月12日	石川ゆずは	唐古・鍵遺跡　木製品

7．ボランティア組織

（1）ボランティア組織の概要

唐古・鍵遺跡を総合的に支援する任意ボランティア組織として、平成16年４月10日、「唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会」（愛称：唐古・鍵支援隊）が設立された。平成21年度の会員は、42名である。

主な活動は、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明ガイドや小学校の総合的学習の支援や子ども会等を対象として考古学体験、ミュージアムへの勧誘活動、文化財保存課（ミュージアム）主催事業への支援等がある。活動については、４月の総会を経て、月例の運営委員会で検討され実施されている。また、「ものづくり教室」の部会では、新しい体験学習メニューの開発や体験学習教材の整備など月２回おこなわれている。

【唐古・鍵支援隊の支援活動】

活動日	内容	主催	支援内容	活動人数
4月25日・6月6日・10月24日 計3日	春季企画展 講演会・報告会・秋季企画展 講演会・ガイド研修会	文化財保存課	受付	13人
6月13日・7月11日・8月8日・ 2月20日・3月20日　計5日	考古学実践講座		受付	8人
7月22日・8月6日・8月19日・ 12月13日　計4日	チャレンジ子ども弥生探検隊（埴輪づくり・勾玉づくり・スタンプづくり）		支援	31人
11月28日	弥生生活体験イベント		支援	10人
5月18日・5月21日・5月29日・ 6月1日・6月12日・6月15日・ 6月25日・9月7日・9月8日・ 10月13日・10月27日・11月5日・ 11月19日・12月4日　計14日	総合的学習（土器づくり・野焼き・火熾し・炊飯・脱穀・勾玉づくり）	北小学校 平野小学校 田原本小学校 東小学校 南小学校	支援	101人
2月17～21日　計5日	田原本町内小学校の総合的な学習展示会	文化財保存課 支援隊 町内5小学校	受付 支援	35人
11月7日	文化祭（グラスアート）	生涯教育課	支援	12人
延べ32日		8団体		210人

【唐古・鍵支援隊の主要活動】

活　動　日	内容		活動人数
4月18日	総会	20年度事業報告・21年度事業計画等	19人
毎月第3土曜日	定例運営委員会	活動内容の相談・報告等（延べ12日）	122人
5月26日・6月23日・9月30日・10月23日・11月18日・11月19日・12月20日	唐古・鍵遺跡 現地ガイド	唐古・鍵遺跡の案内 （7日／ガイド数248人）	9人
毎月第2・4水曜日 臨時	ものづくり部会	体験学習用教材（火熾し・炊飯土器等）の製作・整備（延べ30日）	211人
	ボランティアガイド 連絡会等 対外交渉	ボランティアガイド連絡会（2日／2人） リレーウォーク関連（13日／61人）	63人
7月7日・10月26日・2月19日	唐古・鍵遺跡整備委員会	唐古・鍵遺跡の史跡整備会議	3人
延べ68日			427人

Ⅲ. 唐古・鍵考古学ミュージアム

1．企画展・ミニ展示

（1）春季企画展「寺内町と陣屋の考古学―近世田原本の成立―」

内　容：平成20年度に**町**指定となった「平野権平（長泰）宛豊臣秀吉感状」の公開にあたり、平野氏が誘致して成立した寺内町やその後に築いた陣屋にスポットを当て、さらに周辺地域でも展開した寺内町・陣屋を含めて、近世大和の町場形成とくらしを探った。

期　間：4月18日（土）～5月24日（日）

入館者：791名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数272点）

（Ⅰ）近世の田原本（ケース①～④）
　文書・絵図（福岡氏蔵）・瓦（津島神社蔵）

（Ⅱ）今井町の発展（ケース⑤）
　陶磁器（今井環濠集落遺跡）

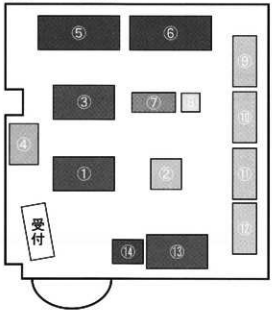
（Ⅲ）周辺の陣屋町（ケース⑥）
　瓦・絵図（芝村陣屋・柳本陣屋）

（Ⅳ）近世の生活文化（ケース⑦～⑫）
　脇衣壺・陶磁器・擂鉢・焜炉・焙烙・
　塩焼壺・火鉢・キセル・泥面子・独楽・碁
　石・硯・石板・石筆

（Ⅴ）速報展（ケース⑬⑭）
　玉類（製品・未成品）・瓦（秦楽寺遺跡）

春季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

【借用遺物】

遺跡名（遺物名・点数）	点数	所蔵者
今井寺内町（瓦質壺1・脚衣壺1・陶磁器31・土釜1・硯1・温石1・葬石3・簪1・笄1・横櫛1・小柄1・黒漆塊1・キセル3）	47点	橿原市教育委員会
茅原遺跡（軒桟丸2・軒丸丸1・平瓦1・鬼瓦1）	5点	桜井市教育委員会
芝村絵図1	1点	芝村自治会
御本落廊跡（軒桟瓦2・軒丸瓦4・絵皿2・湯呑茶碗1・行平鍋3・塩焼壺蓋1・灯明皿14・キセル1・土製玩具1）	32点	大理市教育委員会
平野氏の家紋瓦1	1点	津島神社
平野権平菟玖羽柴秀利物1／平野権平菟玖羽柴秀朱印状1／徳川家康黒印状1／大和国十市郡田原本村図1	4点	福岡洋介氏
6遺跡等（32製品）	90点	5機関等

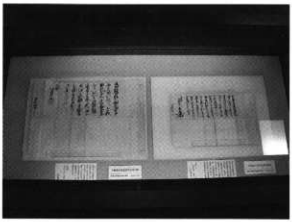
【田原本町保管遺物】

遺跡名		遺物名	点数
企画展	平野氏陣屋跡	擂鉢(2)、庖丁(1)、しゃもじ(1)、箸(2)、焼塩壺(3)、磁器(7)、キセル(3)、灯明皿(4)、火打石(7)、硯(4)、石板(3)、石筆(2)	39点
	寺内町遺跡	瀬戸系染付大皿(1)、絵唐(1)、焜炉(1)、片口鉢(1)、温石(1)、焜炉(2)、泥面子(20)	27点
速報展	秦楽寺遺跡 第4次調査	韓式土器(2)、サヌカイトハンマー(1)、玉砥石(1)、須恵器(1)、製塩土器(一括)、滑石素材・未成品(37)、砥石(1)、滑石剥片・白玉未成品(一括)、臼玉(21)、勾玉未成品(3)、双孔円板(1)、管玉(1)、管玉未成品(4)、琥珀剥片（一括)、グリーンタフ剥片(14)、碧玉(2)、メノウ？(1)、琥珀小玉(7)、ガラス玉(3)、埴木玉？(1)、土師器(1)、須恵器(4)、瓦(7)	116点
	3遺跡	42製品	182点

【関連イベント】

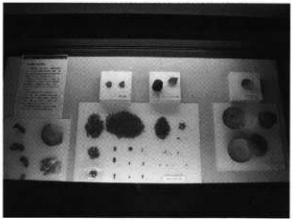
イベント名	内　容	日時・場所	参加人数
講演会	谷山　正道氏（大理大学教授） 「平野氏と田原本」	4月25日（土） 午後1時～4時 研修室	90人
報告会	奥谷　知日朗（町文化財保存課技師） 「秦楽寺遺跡の玉作り」		

展示風景



展示ケース①

展示風景



展示ケース⑬

講演会（谷山正道 氏）

報告会（奥谷知日朗）

（2）秋季企画展「弥生グラフィティー～唐古・鍵遺跡の記号土器～」

内　容：弥生時代後期には、近畿地方、特に奈良盆地南部を中心とした地域で記号を刻んだ記号（文）土器が発達した。この記号は絵画から変化したという説や文字の原形ではないかという説があるなど、未だ議論が絶えない。このような記号土器を唐古・鍵遺跡の出土品から紹介・分類し、その変遷と性格を考察した。

期　間：10月17日（土）～11月22日（日）

入館者：981名（企画展のみ）

【展示構成と主要展示品】（展示総数129点）

（Ⅰ）弥生記号の始まり（ケース①②③）
　壺・甕・高坏・壺棺（弥生時代前期～中期）

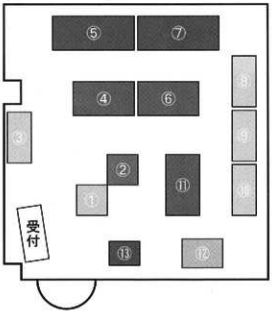
（Ⅱ）弥生記号の体系化（ケース②④～⑨）
　直線の記号・曲線の記号・点・連続の記号

（Ⅲ）記号体系の展開（ケース⑩⑪⑫）
　記号の組合せ・並列の記号

（Ⅳ）記号の終焉（ケース⑬）
　龍の絵画・龍の記号・龍から変形した文様・弧帯文

秋季企画展チラシ

【展示ケースの配置】



展示風景

展示風景

展示ケース④

展示ケース②

展示ケース⑫

展示ケース⑤

講演会（橋本裕行 氏）

【一時返却資料】

遺跡名（遺物名・点数）	点数	所蔵者
唐古・鍵遺跡（長頸壷5・広口壷4・短頸壷1）	10点	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

【田原本町保管遺物】

遺跡名等	遺物名	点数
唐古・鍵遺跡第１次調査他	直線の記号土器（高坏1・短頸壷4・長頸壷20・広口壷7・細頸壷1・壷8・破片9）、曲線の記号土器（小形短頸壷1・小形長頸壷1・短頸壷2・長頸壷21・広口壷11・壷2）、点・連続の記号（短頸壷2・長頸壷1・広口壷2）、記号の組合せ（長頸壷9・破片3）、並列の記号（長頸壷1・広口壷3・壷2）、龍の記号・絵画・文様（長頸壷3・広口壷1・台付壷1・破片2）、絵画土器（短頸壷1）	119点

【関連イベント】

イベント名	内容	日時	場所	参加人数
講演会	橋本　裕行氏 （橿原考古学研究所総括研究員） 「弥生記号の世界～記号の意味するところ～」	10月24日（土） 午後２時～４時	視聴覚室	35名

（３）ミニ展示

ア．夏季ミニ展示

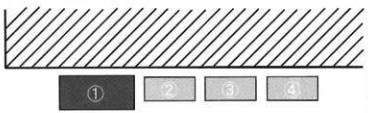
発掘調査をおこなった町内の遺跡や出土品などを紹介する「田原本の遺跡５　弥生から近世までの複合遺跡　十六面・薬王寺遺跡」展を７月25日（土）～８月30日（日）まで開催した。

【展示の構成と内容】（展示期間：37日間／展示点数66点）

（Ⅰ）弥生時代の十六面・薬王寺遺跡（ケース①）
　記号土器・銅鏃

（Ⅱ）古墳時代十六面・薬王寺遺跡（ケース②③）
　古式土師器・滑石製模造品・管玉・丸玉

（Ⅲ）歴史時代の十六面・薬王寺遺跡（ケース④）
　土師皿・瓦器・銅銭



（４）特別展示「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」

内　容：田原本町内の各小学校で実施している総合的学習の時間等を利用した出前授業では、唐古・鍵支援隊の支援の下で小学生に土器づくりや赤米炊飯をはじめとした体験学習をおこなっている。今年度の授業の成果である土器や勾玉の完成品等を展示陳列した「田原本町内小学校の総合的な学習展示会」を開催した。

期　間：２月17日（水）～21日（日）

観覧者：238名（特別展示のみ）

【展示の構成と内容】（展示点数308点）

（Ⅰ）北小学校
　土器・勾玉・貫頭衣・新聞

（Ⅱ）平野小学校
　土器・勾玉・貫頭衣・新聞

（Ⅲ）田原本小学校
　土器・新聞

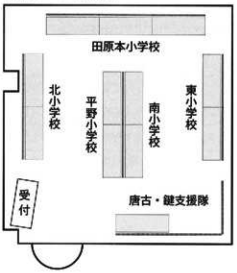
（Ⅳ）南小学校
　上器・勾玉・新聞

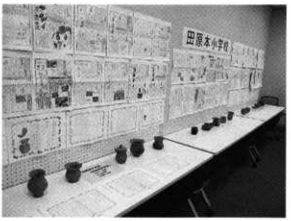
（Ⅴ）東小学校
　勾玉・新聞

（Ⅵ）唐古・鍵支援隊
　火鑽しの道具（火鎌杵・火鑽臼・着火材・火吹き竹）・グラスアート（見本瓶・見本グラス）・土器炊飯の道具（炊飯用土器・五徳）・脱穀の道具（赤米・黒米・臼・竪杵・籾・手箕）・スタンプづくり（見本スタンプ）・貫頭衣

特別展示チラシ

【展示ケースの配置】





展示風景

2．入館者・ホームページ

（1）入館者数

平成21年度の入館者数は、9,634人である。前年度の入館者を比べると、本年度の入館者は約５％増加した。なお、平成22年１月１日より平城遷都1300年祭が開催されており、それに伴って「せんとくんクーポン」が発売されている。クーポンを利用した場合、観覧料は一般 150円、高・大学生50円としている。

【年度別入館者推移】

年度	開館日数	有料入館者		無料入館者				合計
		一般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
16年度	103	1,744	131	1,345	42	251	1,083	4,596
17年度	306	4,988	401	3,060	174	357	3,040	12,020
18年度	306	2,962	911	3,138	105	233	3,879	11,228
19年度	306	3,760	483	2,933	102	186	4,963	12,427
20年度	307	3,473	567	2,790	92	216	2,079	9,217
21年度	307	4,204	585	2,123	111	264	2,347	9,634
累計	1,629	21,131	3,078	15,389	626	1,507	17,391	59,122

※　16年度は、11月24日から3月31日まで延べ103日間の入館者数。

【企画展　入館者数】

		開館日数	有料入館者		無料入館者				合計
			一般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他	
17年度	春季	32	733 (211)	43 (0)	222 (0)	15	77	298	1,388 (211)
	秋季	32	349 (25)	31 (0)	104 (0)	5	42	449	980 (25)
18年度	春季	32	340 (52)	65 (41)	205 (32)	10	30	140	790 (125)
	秋季	32	0 (0)	0 (0)	217 (0)	0	0	1,628	1,845 (0)
19年度	春季	32	332 (54)	21 (0)	331 (223)	9	15	140	848 (277)
	秋季	32	0 (0)	0 (0)	169 (0)	0	47	2,373	2,589 (0)
20年度	春季	32	303 (28)	15 (0)	163 (63)	7	38	178	704 (91)
	秋季	32	231 (0)	44 (0)	93 (0)	5	33	265	671 (0)
21年度	春季	32	442 (186)	20 (0)	142 (46)	9	46	132	791 (232)
	秋季	32	388 (147)	16 (0)	105 (0)	21	21	430	981 (147)
合計		320	3,118 (703)	255 (41)	1,751 (346)	81	349	6,033	11,587 (1,108)

※1　（ ）は団体入館者の人数（内数）、18年度・19年度の秋季企画展は無料の為、団体人数はカウントしていない。

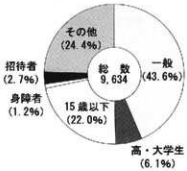
※2　本表「無料入館者　その他」は、「親子無料入館日」・「関西文化の日」の無料入館者を含む。また、18年度・19年度の秋季企画展は、文化庁の「埋蔵文化財保存活用整備事業」の為、無料とし、本項に含めた。

【月別入館者数】

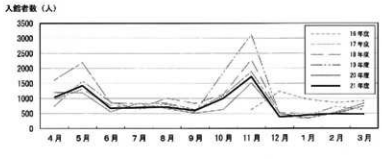
月	開館日数	有料入館者		無料入館者				合　計	
		一　般	高・大学生	15歳以下	身障者	招待者	その他		
4月	26	432 (118)	32 (20)	360 (208)	8	22	181	1,035	(346)
5月	27	822 (440)	64 (0)	215 (0)	13	82	228	1,424	(440)
6月	25	326 (150)	42 (0)	166 (50)	5	16	113	668	(200)
7月	27	187 (49)	175 (117)	209 (0)	7	4	117	699	(166)
8月	26	224 (0)	73 (54)	268 (0)	11	2	131	709	(54)
9月	26	377 (150)	6 (0)	87 (0)	6	6	116	598	(150)
10月	27	649 (310)	53 (38)	106 (0)	4	13	175	1,000	(348)
11月	25	557 (263)	23 (0)	212 (0)	47	30	851	1,720	(263)
12月	24	157 (67)	13 (0)	98 (0)	2	5	111	386	(67)
1月	24	196 (50)	14 (0)	66 (0)	3	58	101	438	(50)
2月	24	133 [2] (0)	54 (54)	166 (0)	1	23	111	488	[2] (54)
3月	26	144 (0)	36 (28)	170 (0)	4	3	112	469	(28)
合計	307	4,204 (1,599)	585 (311)	2,123 (258)	111	264	2,347	9,634	[2] (2,166)

※　[　] はせんとくんクーポンの利用者数（内数）
※　(　) は団体入館者の人数（内数）
※　その他は、研修での利用（減免）・ボランティア研修などの来館者。

【入館者の内訳】



【入館者の月別推移】



また、全体に対する団体の割合は、約23%で増加傾向である。特に団体入館者の多い４・５月と10・11月は企画展の開催に加えて、行楽日和に合わせて各地をウォーキングで巡る団体が来館するためであると思われる。

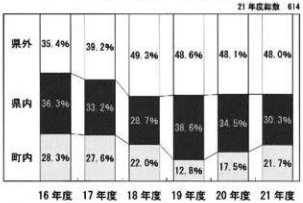
入館者の月別推移は、開館２年目以降、同様な傾向で企画展を開催する５月と11月の２つの月にピークがみられ、逆に９月と12～２月にかけて落ち込む傾向が読み取れる。

無料入館日の入館者は、５月５日（火・祝）のこどもの日（親子・保護者を対象）87名、関西文化の日の11月21日（土）436名・22日（日）357名の総計880名であった。

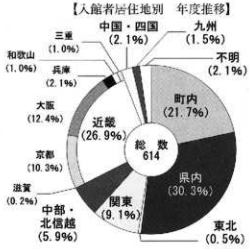
（2）入館者アンケート

入館者アンケート（常設展示）を実施した。回答総数614件、回答率４～６％である。

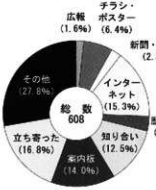
【入館者居住地別　年度推移】



【入館者居住地別　年度推移】

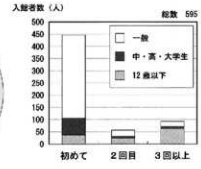


【ミュージアムを知った理由】



【来館目的】

【来館回数】



（3）視察・研修・学校等からの来館

平成21年度は、下記のとおり視察・研修７件35名、学校の利用５校451名、海外から研究者64名の来館があった。

視察・研修　橿原考古学研究所（４月８日／４名）・和歌山県新宮市（５月27日／８名）・国家公務員研修（６月24日／３名）・橿原考古学研究所（７月７日／７名）・田原本町教育委員会（８月18日／８名）・鹿児島県立埋蔵文化財センター（11月４日／３名）・吉野ヶ里公園管理センター（２月８日／２名）

学校利用　田原本小学校６年生（４月15日／116名）・北小学校６年生（４月24日／46名）・平野小学校３年生（６月23日／50名）・東小学校６年生（７月14日／12名）・奈良大学通信教育（７月19日／117名、８月29日／54名、２月13日／28名、３月13日／28名）

海外研究者　福建省博物館（６月２日／１名）・龍谷大学留学生（６月２日／２名）・国立台南芸術大学（７月11日／３名）・韓国中部考古学研究所（12月３日／２名、１月26日／２名）・中原文化財研究所（１月26日／１名）・仁済大学（１月28日／42名）・慶州博物館（２月５日／１名）・韓神大学（２月18日／10名）

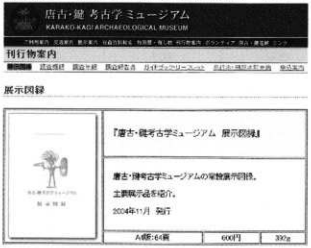
（4）ホームページ

刊行物案内の「これまでに刊行した書籍（案内）」と、収蔵資料検索の「唐古・鍵遺跡（一般用）」をリニューアルした。刊行物案内では各書籍の画像と内容の紹介を追加し、収蔵資料検索ではこれまでのテーマ別検索に加えて新たに素材別検索が可能となった。また、平成21年度のアクセス件数は11,303件で、前年度より約20％増加した。

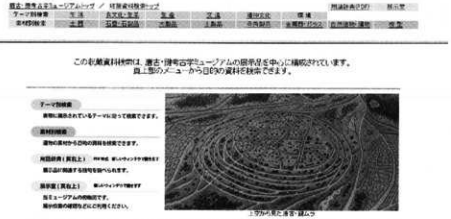
【ホームページのアクセス数】

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
アクセス数	2,518	8,324	8,183	10,291	9,391	11,303
累　計	2,518	10,842	19,025	29,316	38,707	50,010

【刊行物案内 ＞ これまでに刊行した書籍（案内） トップページ】



【収蔵資料検索 ＞ 唐古・鍵遺跡（一般用） トップページ】



3．ボランティアガイド

（1）ボランティアガイドの実績

ミュージアムの展示品解説ボランティアは、開館以来実施している。ガイドは年度単位とし、継続更新は可としている。平成21年度のガイドの登録は40名で、21年度の新規登録者は１名である。基本的に月２回の午前10時から午後４時（冬季の12月～２月は午前11時から午後３時）までとし、常駐２人体制で実施した。また、団体客等多数の来館の場合に備えて、応援ガイド体制を作りその時間帯のみ臨時に対応している。このような体制で、下表実績に示すとおり約５割の来館者に対応した。ガイドの研修は、６月６日に「弥生土器について～編年・用途・実年代etc～」を実施した。

【展示ボランティアガイド実績】

月	開館日数	稼動人数	ガイド人数※1	入館者数（常設展のみ）
4月	26日	60人	470人	718人
5月	27日	68人	578人	887人
6月	25日	52人	315人	668人
7月	27日	57人	298人	699人
8月	26日	49人	272人	709人
9月	26日	54人	323人	598人
10月	27日	54人	456人	725人
11月	25日	52人	380人	1,014人
12月	24日	48人	151人	386人
1月	21日	49人	214人	438人
2月	24日	48人	169人	488人
3月	26日	50人	164人	469人
合計	307日	641人	3,790人（48%）※2	7,862人

※1　ガイド人数は概数　　※2　ガイド数／入館者の割合

Ⅳ. 資料の報告

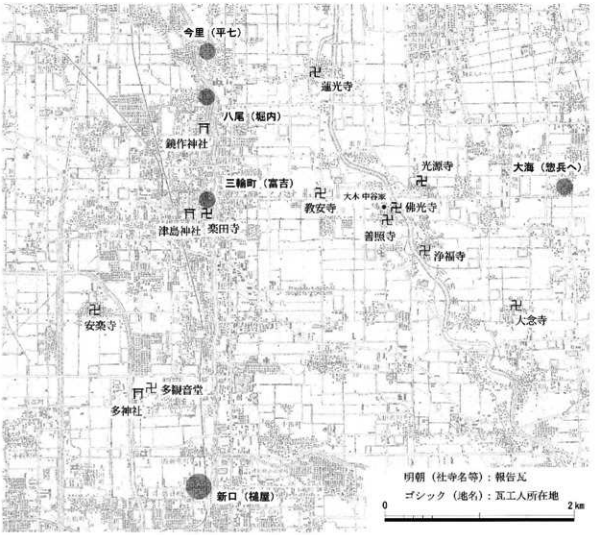
田原本の近世棟端飾瓦と瓦屋・瓦師

河森一浩・清水琢哉・藤田三郎

1．はじめに

これまで田原本町教育委員会では、多神社・津島神社・蓮光寺など町内の近世社寺の建替えに伴って発掘調査をおこなってきた[1][2][3][4]。また、奈良県文化財保護指導員の中西秀和氏は、町内の社寺等に葺かれた棟端飾瓦について調査をおこなっている[5]。

こうした成果を受け、唐古・鍵考古学ミュージアムでは、平成20年度春季企画展として「瓦に込めた願い －田原本の瓦作りと民間信仰－」展を開催し、年号や瓦屋・瓦師の銘をもつ棟端飾瓦を中心に展示をおこなった[6]。以下では、社寺瓦の全容を示すものではないが、展示に際して集成した神社３ヶ所、寺院９ヶ所と個人所有の棟端飾瓦等の36点について報告する（第１図・第４表）。



第１図　位置図（S＝1/40,000）

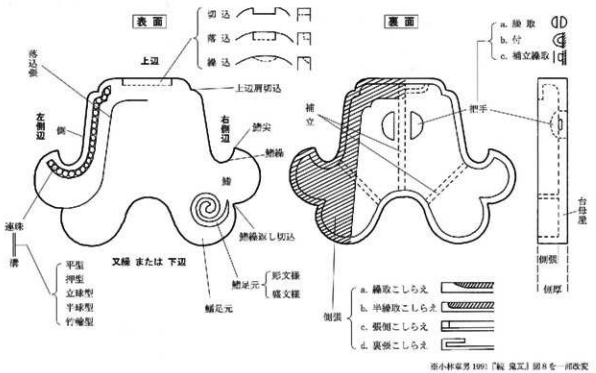
2．棟端飾瓦の名称と部位名称

棟端飾瓦については、小林章男氏の一連の研究がある[7][8][9]。小林氏は、文献史料や瓦の刻銘の表記を整理し、棟端飾瓦の１つとして鬼瓦を位置づけるとともにその出現時期を考察した。また、この棟端飾瓦については、表面の意匠から、１.鴟尾瓦（尚尤神）、2.棟端飾瓦（蓮華紋）、3.吻様式飾瓦（招福神）、4.獅子口瓦（御所・神社・門跡寺院）、5.鬼面瓦（憤怒相）、6.祈願・呪文紋瓦（威嚇・願事・呪文）、7.鯱瓦（水と共に防火の神）、8.鳥衾瓦（飾瓦の最上を飾る）に大別した[10]。なかでも鬼面瓦については、全国各地の中近世の鬼面瓦を集成するとともに、瓦製作者の視点からその見方や用語を解説し、形態や技法、変遷を明らかにした。

ここでは、これらの一連の研究成果をもとに田原本町内に点在する棟端飾瓦のうち、鬼面瓦と祈願・呪文紋瓦を観察し、その形態や製作技術、特徴について報告する。なお、部位名称については、小林氏の用語を使用する（第２図）。なお、棟端飾瓦は、その使用建物や屋根の位置により大棟・二の鬼・降棟鬼・稚児鬼があり、形態や法量が異なる。本報告資料では、葺かれていた建物や位置について判る範囲で記述することとするが、特定できない資料も多くあり、個々の資料の形態や特徴を中心に述べる。

本報告資料の棟端飾瓦としては、鬼面瓦と祈願・呪文紋瓦がある。はじめにそれらの特徴をまとめておく。このほか、隅蓋瓦や平瓦の銘文のあるものも報告する。

〔**鬼面瓦**〕　表面に鬼面の表現がみられるもので、土台部分の「母屋（母家）」は長方形あるいは台形の平面形を呈し、その母屋に立体的な鬼面を張り付けているものである。母屋下辺は直線的、あるいは逆U字形の又繰のある２形態である。また、両端に鰭がつくものとそうでないものや、さらにその下に鰭足元がつくものがある。



※小林章男 1091『続 鬼瓦』図８を一部改変

第２図　母屋部位名称

第３図　鬼面瓦の合子痕（左）と母屋中央の落込張（右）

表面の鬼面を貼り付ける部分については一段低くする「落込張」の手法をとるものがある（第３図右）。また、側辺部分には「連珠」を配するものがみられ、連珠は竹管の押捺や半球形の粘土を貼り付ける手法をとる。鬼面の成形には、合子（型）を用いるものがある（第３図左）。鬼面の上半と下半部は別作りで、その上半部に合子を用いる例が多い。

裏面は「側張」をつくり、母屋に厚みをもたせる。その側張の手法は大きく２つで、母屋の粘土を削り込むもの（ａ．繰取こしらえ、ｂ．半繰取こしらえ）と粘土板を母屋に貼り付ける（ｃ．張側こしらえ、ｄ．裏張こしらえ）ものがある。ここでは、側張ａ・ｂ・ｃ・ｄ類としておく（第２図右下）。

側張に厚みが出てくることによって、母屋台を保持するために粘土板による「補立」を貼り付けることもしている。また、「把手」は、母屋本体に三日月形の孔を２つあけるもの（ａ．繰取）、母屋に粘土紐を貼り付け把手にするもの（ｂ．付）、前述の補立に孔をあけるもの（ｃ．補立繰取）がある。それぞれを把手ａ・ｂ・ｃ類としておく（第２図右上）。

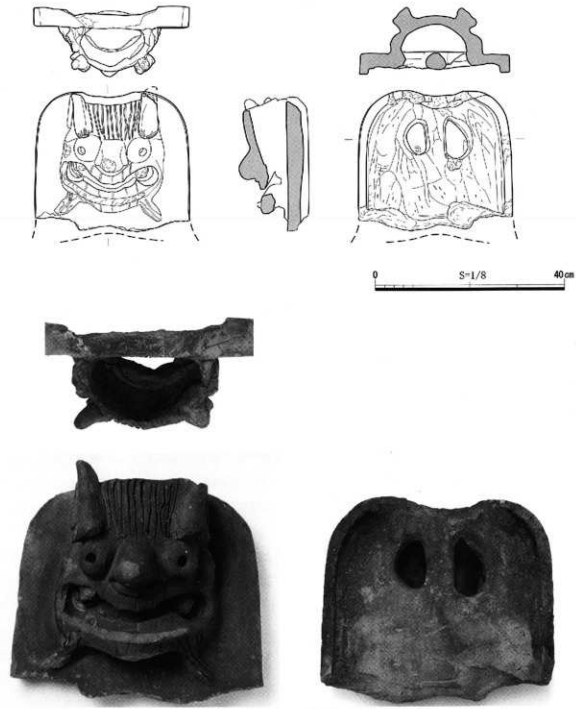
〔祈願・呪文紋瓦〕　鬼面瓦と同様の母屋をもつとともに鰭・鰭足元をつけるものがある。表面には家紋・梵字・七福神などの表現をもち、総じて平面的である。製作手法は、表面・裏面ともに鬼面瓦と同様で、「落込張」・「連珠」・「側張」・「補立」・「把手」の工作がみられる。「側張」や「把手」については、鬼面瓦の分類を使用する。

家紋等の文様のつけ方には、母屋中央部を落込張し、文様を貼り付けるもの（第３図右）と母屋平面に文様を貼り付けるものがある。

３．田原本町所在社寺等の棟端飾瓦

（１）多神社

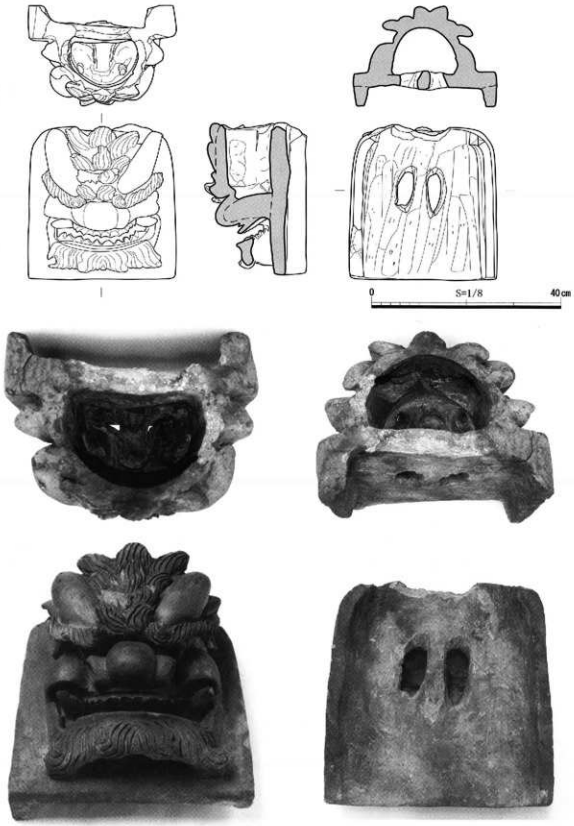
多坐弥志理都比古神社（多神社）は田原本町多字宮ノ内に所在する式内社で、本殿は県の指定文化財になっている。拝殿は平成10年に建替えに伴う発掘調査を実施した。この拝殿は、後述する拝殿大棟の西側の鬼面瓦４の紀年銘から「宝暦九年（1759）」に建造された可能性が高い。なお、多神社の資料館には、この拝殿建替え時に屋根から降ろされた棟端飾瓦等18点が保管されており、今回はその一部である４点を報告する。なお、これら瓦についての詳細は、今後刊行される報告書を参照されたい。



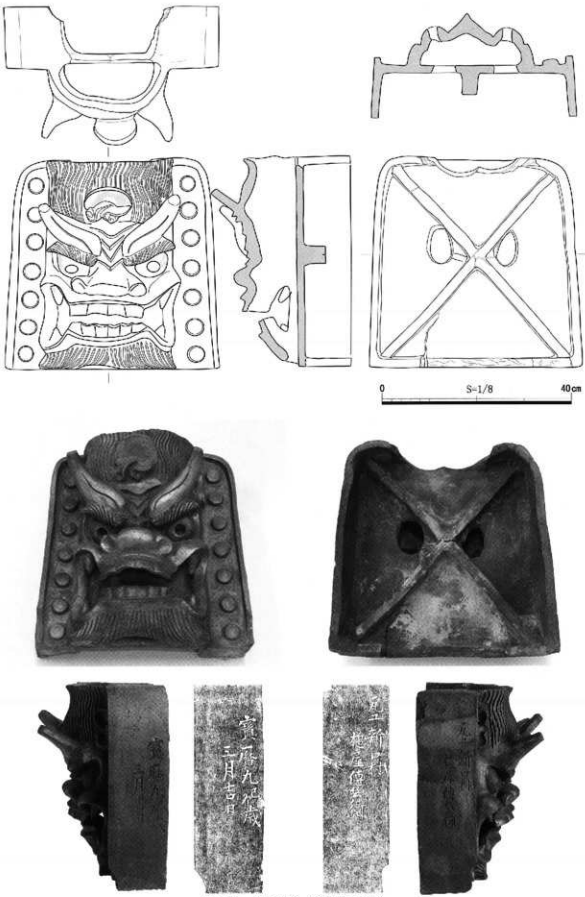
第4図　鬼面瓦1（多神社 拝殿）

鬼面瓦1・2（第4・5図）は、合子型を用いて鬼面を成形するものである。鬼面瓦2の鬼面頭部の横断面は半円形を呈していることから、ほぼ型の形状を推測することができる。鬼面瓦1の下端は打ち割られた可能性があるが、形状としては又繰があり両端はやや広がるようにみえる。また、母屋中央には割付用と考えられる直線がみられる。裏面は、両者とも削りによって側張（側張b類）を作り出し、中央部には繰取による把手a類があけられている。

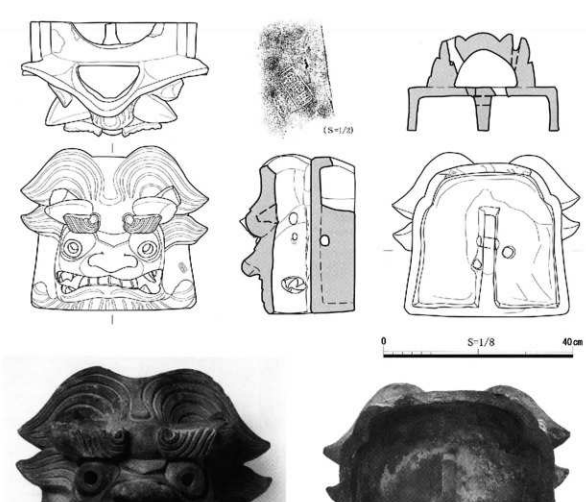
鬼面瓦3（第6図）は、側辺に貼付による連珠がつく。また、鬼の頭飾りとして日輪が付けられ、



第5図　鬼面瓦2（多神社 拝殿）



第6図　鬼面瓦３（多神社 拝殿）



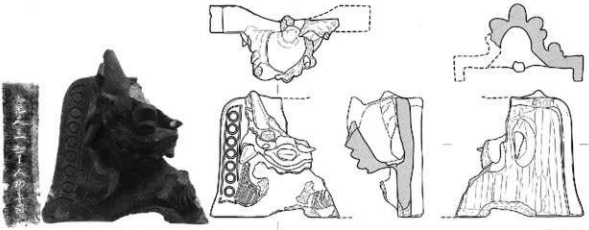
第７図　鬼面瓦４（多神社 拝殿）

この日輪と日、牙にベンガラと思われる赤色顔料が塗布されている。左側面に「寶暦九己卯歳　三月吉日」、右側面に「瓦工　新口村 槌屋傳兵衛」のヘラ描きがある。

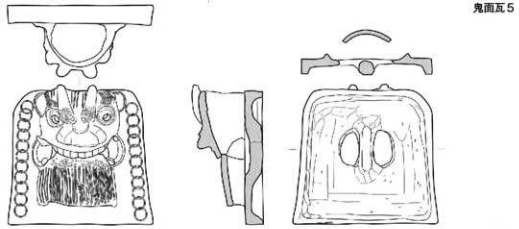
鬼面瓦４（第７図）は、鬼の形相が異なる。頭毛を両側に分け、眉や角がつり上がらず横方向にとりつく。また、目は突出し平坦にする特徴をもっている。母屋右下に「田瓦平」の押印がある。裏面は、中央に補立を作り、そこに把手の孔（把手ｃ類）をあけている。

（2）多観音堂

観音堂は、前述多神社の東方約100ｍに所在する。「多神宮寺観音下地田数帳」（天正二年／1686年）に「観音堂」の記述がみえる。鬼面瓦５～７（第８図）は、平成10年の台風９号に際して観音堂が破損し、建替えに伴って床下に保管されていた資料である。鬼面瓦５～７のうち、６・７は同形で、後述銘文から同じ工人の作と考えられる。５～７の母屋は、側張が半繰取こしらえの厚みのないも



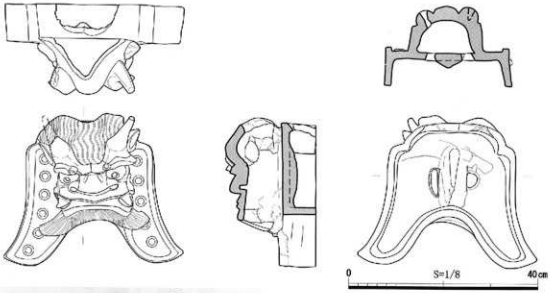
鬼面瓦5

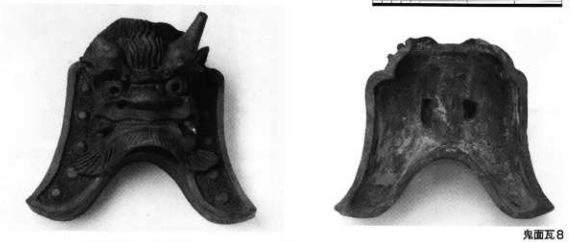


鬼面瓦6

鬼面瓦7

第8図　鬼面瓦5～7（多観音堂）





第９図　鬼面瓦８・９（安楽寺 本堂）

ので、把手は繰取のａ類である。また、鬼面は合子による成形で、鬼面頭部の横断面は半円形を呈する。側辺部には、竹管の押捺による連珠文が施されている。これらには紀年銘があり、鬼面瓦５と６の左側面にはそれぞれ「寛文三年（1663）」、「宝永六年（1709）」の年号が刻まれている。さらに６の右側面に「多村二ノ口瓦や八兵衛門子　権兵へ　勘四郎」、鬼面瓦７の左側面に「和州十市郡二ノ口村かわらや権兵へ」、右側面に「多村くわんせ御堂　同勘四郎　八右衛門子」のヘラ描きがある。

第10図　鬼面瓦8・9（安楽寺 本堂）

（3）矢部安楽寺

安楽寺は、田原本町大字矢部字西垣内に所在する。阿弥陀如来坐像（江戸時代前期）を本尊とし、良忍上人坐像（室町時代）や融通念仏縁起図（南北朝／国重要文化財）を所蔵している。後述する鬼面瓦は、平成2年の本堂の瓦葺替え時に降ろされた資料である。

鬼面瓦8・9は、母屋下辺に鰭が付くタイプ（8）と付かないタイプ（9）であるが、鬼面や連珠が同じ作風のものである。両者とも上辺の肩に切込を入れる。また、母屋の周縁は幅1cm程度に立ち上げ、その内部に貼付による連珠文をめぐらしている。側張は、粘土板の貼り付けによって高く作られている。鬼面瓦8・9の裏側の把手は繰取の把手a類であるが、8では把手となる両孔の間に縦方向の粘土を付加し強度を増している。鬼面瓦9には把手孔を穿つために中央に割り付け線を施している。

鬼面瓦8の右側面には「安永九天（年）　庚子三月日」、左側面には「新口村瓦工　槌屋傳兵衛」の、鬼面瓦9の右側面には「巳安永八年　亥十月吉日」、左側面には「新口村瓦工　槌屋傳兵へ」のヘラ描きがある。両者の筆致はやや異なるため同工とは断定できないが、同じ工房で製作されたものであろう。このことから、この工房ではこの安楽寺の瓦の製作が少なくとも安永八年10月から同九年3月の期間に及んでいた可能性が考えられる。

（4）津島神社

津島神社は、田原本町小字九軒町に所在する牛頭天王を祭神とする祇園社で、社殿は天治二年

第11図　鬼面瓦10（津島神社 拝殿）

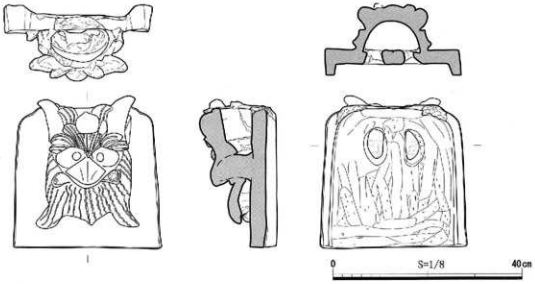
（1125）の再建の棟札から創建はさらに遡ると考えられる。社殿は、その後の数回の再建によって現在に至っている。また、江戸時代には神宮寺の感神院があったが、明治２年（1869）の神仏分離時に廃寺になるとともに、平野家の本貫地（尾張国津島）にあった津島神社にちなみ社名が改められた。

平成19年の拝殿と社務所の建替えに伴い、葺かれていた鬼瓦等を中西秀和氏が調査した。本報告は、中西氏の成果をもとにその一部を掲載する。拝殿と社務所に葺かれた棟端飾瓦の位置は、第４表のとおりである。

鬼面瓦10・11（第11・12図上）は上辺を繰込し、肩に切込をいれるものである。また、側張は半繰取こしらえ（側張ｂ類）、把手はａ類の繰取である。鬼面瓦11には、裏面中央に割付用の直線を縦方向にいれる。鬼面瓦12（第12図下）は、長方形の母屋をもたず縁辺に鰭の装飾を施すものである。顔面には鬼にみられる角や牙が明瞭でないことから、獅子であろう。側張は張側こしらえ、把手は貼付である。

祈願・呪文紋瓦１～３（第13図）は拝殿、４～９（第14～16図）は社務所に葺かれていたものである。祈願・呪文紋瓦３の母屋は長方形、その他は下辺に鰭がつくものである。これらの多くは、上辺肩に切込があるとともに主紋部分は落込張にしている。また、裏面の把手は貼付である。祈願・呪文紋瓦１は鰭足元を付加し、裏側は中央縦方向の補立によって補強している。祈願・呪文紋瓦２には巴紋、３には平野家の家紋である「三鱗紋」がみられる。両者の左側面には「南都細工人米川□」の工人名があるとともに、２の右側面には「瓦平きしん」、３では「慶應二寅年」のヘラ描きがある。

また、３の裏面の左側には「村 森田新七 寄進」のヘラ描きがある。祈願・呪文紋瓦４は、獅子



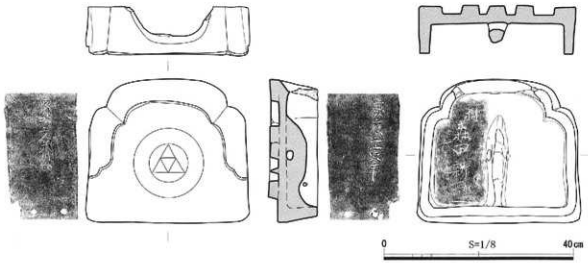
鬼面瓦11

鬼面瓦12

第12図　鬼面瓦11・12（津島神社 拝殿・社務所）

祈願・呪文紋瓦１

祈願・呪文紋瓦２



祈願・呪文紋瓦３

第13図　祈願・呪文紋瓦１～３（津島神社 拝殿）

祈願・呪文軟瓦４

祈願・呪文軟瓦５

第14図　祈願・呪文軟瓦４・５（津島神社 社務所）

祈願・呪文紋瓦6

祈願・呪文紋瓦7

第15図　祈願・呪文紋瓦6・7（津島神社 社務所）

祈願・呪文紋瓦８

祈願・呪文紋瓦９

第16図　祈願・呪文紋瓦８・９（津島神社 社務所）

口瓦と折衷したもので上辺に縁の巻をつける。母屋周縁には粘土貼付による連珠がめぐり、中央には落込張によって木瓜紋（五瓜に唐花）を貼り付けている。この家紋は、祇園社に多くみられるもので当社も神紋として採用されているのであろう。左側面に「嘉永元　申十月日」、右側面に「三輪早（町）　瓦屋善四郎　内富吉才工」のヘラ描きがある。

祈願・呪文紋瓦５は、笵による木瓜紋（五瓜に唐花）をつける。左側面に「三己（わ）町　瓦ヤ善四郎内富吉才工」、右側面に「嘉永元　申十月日」のヘラ描きがあり、４と一連のものであろう。

祈願・呪文紋瓦６～８は、同形・同紋のものである。６の左側面に「邑」、右側面に「邑瓦サ」、７の右側面の上部に「瓦サ」、下部に「嘉永元年申十月」、８の右側面には「邑瓦佐」のヘラ描きがあり、いずれも同工のものであろう。

第17図　祈願・呪文紋瓦10・隅蓋瓦１（楽田寺）

祈願・呪文紋瓦９は、凡字部分を落込張にし、その部分に漆喰を貼っていたようでその一部が残存する。

（５）楽田寺

楽田寺は、田原本町字堺町に所在する寺院で、天平元年（729）の創建と伝えられるが詳細は不明である。室町時代中期には、「平坊二十ケ所計也」（「大乗院寺社雑事記」）とあり、寺内町の南部東半は、この寺院が占めていた可能性がある。本堂は延享三年(1746)以前、釣鐘門は寛延二年(1749)の建築である。平成19年の改築に伴い棟端飾瓦が降ろされ、中西氏によって調査された。その一部の紀年名のあるものを説明する。

祈願・呪文紋瓦10（第17図上）は、中央部に神翁の造形物を貼り付ける。下辺の両側には鰭が付

くが、側辺からの側張を下辺まで連続して作り一体化している。右側面に「田原本三己（わ）町瓦ヤ富吉才工」、左側面に「嘉永四　亥五月日」のヘラ描きがある。

隅蓋瓦１（第17図下）の蓋部は、三叉状の凹部を有するもので、２ヶ所に直径0.7cmの円形孔があく。蓋部には下り獅子と牡丹が造形されている。蓋部に「田原本　三輪町　瓦ヤ　富吉　細工人　天保十 己亥十月 吉日」のヘラ描きがある。

（6）鏡作神社

田原本町八尾字ドウズに所在する式内社である。中世には神宮寺の真言宗聞楽院が西側に存在していた。本報告の棟端飾瓦は、この旧堂に伴うものであろう。

鬼面瓦（第18図上）は、大きさからして旧堂の大棟に葺かれていたと思われるものである。側辺には鰭がつき、側辺から鰭にかけて貼付の連珠文をめぐらしている。上辺肩には切込をいれる。裏面には十字形の補立をつけ、円孔を穿つことにより把手としている。台部には、乾燥時の補強のためと思われる最大長16.2cm・最大幅２cmの当て具痕跡がある。右側面には「今里村　瓦師平七」のヘラ描きがある。

隅鬼瓦２（第18図下）は、丸瓦のほぼ中央には、左足を上げ、右手に提燈、左手に棍棒をもつ鬼が造形されている。また丸瓦内面には布目圧痕が残る。鬼の背面には「八百村 明和五子年 堀内氏作」のヘラ描きがある。

（7）善照寺

善照寺は、田原本町大木字タカハシに所在する。寛政二年（1790）の「御坊付末寺触下地頭付年号年暦控」に寺号がみられ、少なくともこの頃には存在していた。報告する鬼面瓦は、平成６年(1994)におこなわれた本堂の改築に伴い散在していたものを中谷義弘氏が採集した資料である。

鬼面瓦14（第19図）は、左右の鰭足元部分が欠損しているが、打ち割り整えたものであろう。上辺は肩切込を入れる。側辺の文様は、側辺に沿って輪郭線を入れ、その内部に竹管による連珠を押捺している。鬼の頭部には、頭巾と思われる頭飾りがつく。右側面に「和州安倍村瓦屋庄治郎作」、左側面に「元禄十六年　藤原正重」、上辺に「末九月吉祥」のヘラ描きがある。側張は粘土板の貼付、把手は縦取で大きくあけられている。

鬼面瓦15・16（第20図・21図上）は、いずれも右側面に「宝暦十弐年八月日」、左側面に「大かい惣兵へ」、「大かい惣兵衛」のヘラ描きがあるもので、阿吽一対の鬼面瓦と思われ、同一工人によるものであろう。ただし、鬼面の作風を変えており、15では角が内向きで髭が点描であるのに対し、16では角を直立させ髭は縦線で表している。側張は粘土板の貼付で、厚みがある。把手は縦方向の貼付把手である。

鬼面瓦17（第21図）は、鬼面部分を落込張し、上辺肩は斜めにカットする。側辺には鰭が付き下辺に至るが、下辺は直線的でない。下辺中央部が欠損しているため、その形状は不明であるが、又繰のように凹部をもつのでなく逆に突出するようである。把手は、鬼面瓦15・16と同じである。

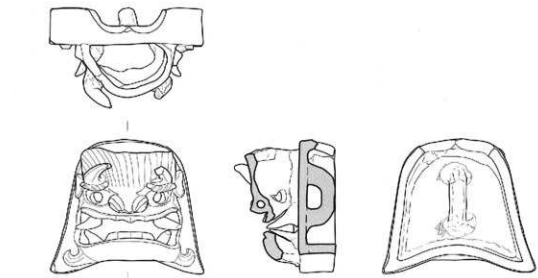
（8）佛光寺

田原本町大木字カイトに所在する。「融通大念仏記録」に「和州城下郡大木村道場　代々看坊当村無住　此道場従古在之開基年暦不分明」とあり、詳細については不明である。現在は薬師堂が残っている。本報告の鬼面瓦は、平成３年（1991）におこなわれた庫裏の建替えに伴って降ろされた資

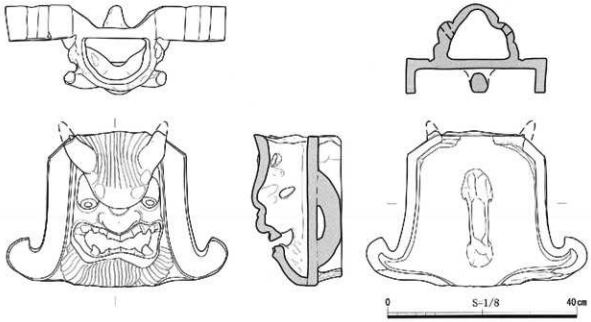
第18図　鬼面瓦13・隅壺瓦２（鏡作神社）

第19図　鬼面瓦14（善照寺）

第20図　鬼面瓦15・16（善照寺）



鬼面瓦15



鬼面瓦17

第21図　鬼面瓦15・17（善照寺）

鬼面瓦18

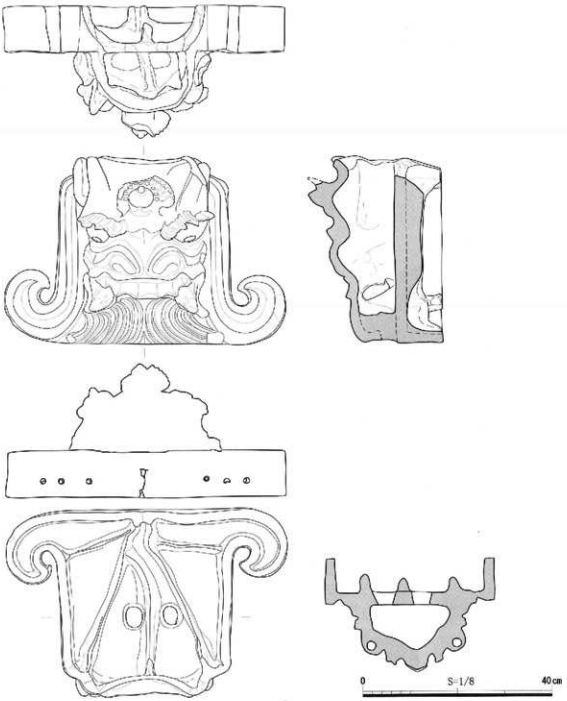
鬼面瓦19

第22図　鬼面瓦18・19（佛光寺）

料である。

鬼面瓦18（第22図上）は、鰭と鰭足元がつくタイプである。鬼面部分を落込張し、上辺肩部に切込を入れる。背面の把手は繰取である。

鬼面瓦19（第22図下・23図）は、側辺に鰭がつき渦状の彫文様を施している。この彫文様は、鼻表現にも特徴的に表れている。鬼の頭には宝珠を付けている。大型品であるため、裏面には下辺から放射状に補立が付けられている。把手は繰取によるもので丸くあけている。右側面に「□佐平次」、



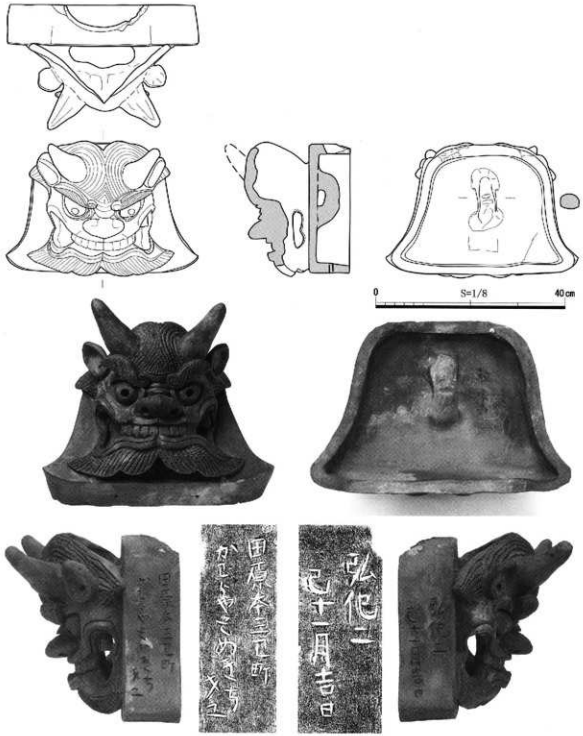
第23図　鬼面瓦19（佛光寺）

左側面に「延享四年 卯ノ二月日」のヘラ描きがある。

（9）教安寺

田原本町大安寺字ソノゾエに所在する。本堂は元禄五年（1692）に再建され、嘉永七年（1854）の大地震に際して大改修がおこなわれている。平成６年（1994）には、本堂・山門の建替えがおこなわれ、本堂に葺かれていた鬼面瓦も降ろされた。本資料はその瓦である。

鬼面瓦20（第24図）は、下辺が緩やかに拡がる母屋を有するものである。鬼の容貌は、目・眉・耳など各部位が立体的に表現されており、形相として際立った造形である。特に頭頂部が高く作ら



第24図　鬼面瓦20（教安寺 本堂）

れているため、立体的になっている。側張は、粘土板の貼付で側厚は高い。右側面に「田原本三己（わ）町か己（わ）らやとめきち 才工」、左側面に「弘化二 巳十一月吉日」のヘラ描きがある。把手は縦方向の貼付把手である。

隅蓋瓦３（第25図）は、三叉状の凹部を有する土台の蓋に獅子の造形物を貼り付けたものである。蓋部左側に「弘化二 己十月 吉日」、右側に「田原本 三輪町 瓦屋 冨吉 才工人」のヘラ描きがある。この銘文は、前者鬼面瓦20と漢字・かなの違い等一部みられるものの「本」・「才工」の筆跡は同じ

第25図　隔蓋瓦３（教安寺）

であることから、同工の作と考えてよい。二者の製作には１ヶ月の差がある。作風は、鬼面瓦と同様、獅子の容貌に立体感があり、よく似ている。蓋の土台部分には、直径0.6cmを測る円形孔を５ヶ所あける。

(10) 浄福寺

田原本町藏堂字中垣内に所在する。元亀二年（1571）の開基とされ、文政七年（1824）の「万歳帳」から「東浄福寺」「西浄福寺」の存在が知られている。現在の浄福寺は、「東浄福寺」に当たる。本堂は上層六角、下層方形の構造をもち、棟札から慶応二年（1866）の建築である。本資料の詳細は不明である。

鬼面瓦21（第26図上）は、左右の蟷足元が欠損しているが、故意に打ち割り整えていると思われる。上辺は肩に切込をいれる。鬼面部は落込張で、鬼の頭には日輪がつけられている。裏面は縄取

鬼面瓦21

鬼面瓦22

鬼面瓦23

第26図　鬼面瓦21～23（浄福寺・光源寺・大念寺）

による把手a類である。側張は削り出しと思われ、薄い。

(11) 光源寺

田原本町金沢字カイトに所在する。安永三年の文書に、「抑当寺建立ハ難及四拾余歳ニ」とあり、江戸時代中期の創建と考えられる。鬼面瓦22（第26図中）の鬼は、目が強調され、鼻周囲に平坦面をもつ特徴ある容貌である。上辺の肩切込はない。側辺は下辺に向かって緩やかに拡がるタイプである。側張は粘土板の貼付で、把手は縦方向の貼付把手である。

(12) 大念寺

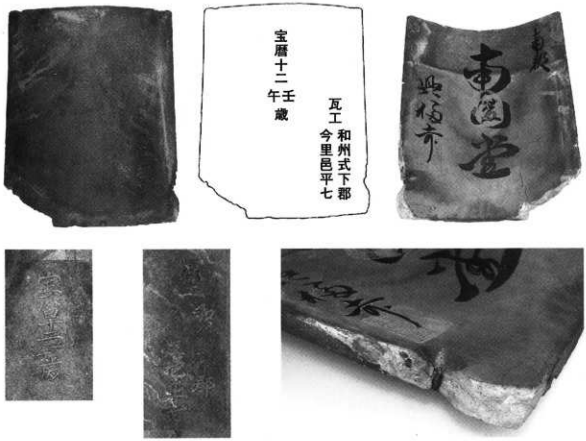
大念寺は、桜井市東田に所在する。鬼面瓦の詳細は不明である。鬼面瓦23（第26図下）の鬼の頭飾りには、宝珠が付けられている。左側面に「大安寺村　うノ三月日」のヘラ描きがある。裏面の把手は繰取による把手a類である。

第27図　祈願・呪文紋瓦11・12（中谷家）

(13) 大木・中谷家

中谷家は、田原本町の東部に位置する大字大木に所在する。この集落は、発掘調査の成果から中世以降に成立したと思われ、江戸時代を経て現代に至っている。中谷家はこの大木集落のほぼ中央に位置している。本報告資料は、平成17年（2005）におこなわれた中谷養弘家の納屋の改修時に降ろされた瓦である。この建物は、明治29年（1896）に建てられたものであるが、後述するように江戸時代の棟端飾瓦なども再利用されたと考えられる。

祈願・呪文紋瓦11（第27図上・下左端・下右２）・12（第27図中・下左２・下右）は、同形でともに鰭と鰭足元がつき、さらにその下にギボウシの葉の形状をしたものがとりつき、下辺を作っている。11の主紋は菊花、12の主紋は牡丹で、細やかな粘土細工で貼り付け、また、透かしを入れるなど表現が豊かである。11・12の右側面には「田原本三己（わ）町 瓦ヤ富吉才工」、左側面に「嘉永四 亥五月日」のヘラ描きがあることから、同一工人によるものと推定でき、前述のようにその作風も同じである。この銘文にみられる「瓦ヤ冨吉」は、教安寺の鬼面瓦20・隅蓋瓦３にみられる銘文の工人と同じであり、「本」・「己」・「瓦」・「才工」など共通する筆跡がみられる。



第28図　平瓦（興福寺 南円堂）

(14)「南都　南円堂　興福寺」銘平瓦

西克晏氏（田原本町魚町）が所蔵する平瓦（第28図）で、凹面に「南都　南円堂　興福寺」の墨書、「西國第九番」「興福寺南圓堂」の朱印がある。興福寺南円堂の瓦葺き替えを記念して、配布された瓦と考えられるものである。

広端の一部を欠損する。凸凹面・小口とも丁寧なナデが施され、縄目などの痕跡はみられない。凸面には縦25.4cm、横28.8cmを測る方形のナデ残しがみられ、中央上に「宝暦十二壬午歳」、右下に「瓦工 和州式下郡 今里邑平七」の押印がある。広端の両端には、凹面側から外径約４cm、内径約1.2cmを測る漏斗状の釘穴がみられ、凸面からみて左側には鉄釘の一部が残存する。凹面は狭端側の端部から約12cmの範囲が変色し、瓦を葺いていた際の痕跡と考えられる。

４．棟端飾瓦の製作と瓦屋・瓦師の分布・流通

（１）鬼面瓦の変遷

鬼面瓦の変遷については、小林氏が既にその詳細を論じているが、奈良盆地中央部の近世鬼面瓦の傾向を一応とらえておくことにする。報告した鬼面瓦のうち、紀年銘をもつ資料は10点である（第１表）。最も古い資料は多観音堂の鬼面瓦１で寛文三年（1663）、逆に最も新しい資料は教安寺の鬼面瓦20で弘化二年（1845）である。1700年代を中心に前後40～60年の空白期間がみられる。これら資料は数量的な確保ができていない点や鬼面瓦という個性的な作品であることから、おおまかな傾向のみ示しておこう。

母屋の形態では、蟇のつかないタイプで一つの傾向が読み取れる。これは下辺の左右端部に広がりがみられることで、新しくなるほど側辺部の下辺ちかくが大きくアールをもつようになる。側張の手法は、繰取あるいは半繰取から張側こしらえになり、厚みのある（立体的な）側張に変遷していく。また、鬼面部分は、古いタイプでは多観音堂例のように合子型を使用するため、鬼面上部（頭部）が鬼面下部（口・顎髭部分）より立体的な作りになっているが、新しくなるとその高低差は少なくなる傾向がみられる。側辺の連珠では、竹管の押捺から連珠玉の粘土貼付になる可能性がある。裏面の把手では、繰取の把手から補立繰取や貼付把手へと変遷するようである。このように見てくると、その工作は18世紀中頃に一つの画期がみられるようで、鬼面瓦の造形が立体的・華美になっていくことが言えそうである。

（2）祈願・呪文紋瓦について

祈願・呪文紋瓦については、報告資料に限りが有り言及できないが、津島神社や楽田寺、中谷家の墓末の資料がある。これらの多くは、「田原本三輪町瓦や富吉」銘であり同一工人によるものである。したがって、その他の工人の動向が把握できていないので課題が多い。ただし、この工人は鬼面瓦も製作しており、その細工は連動している。また、祈願・呪文紋瓦が民家の屋根を飾っており、幕末になると民家の瓦葺きが普及していたことが傍証される。

（3）瓦屋・瓦師と瓦の生産流通について

報告した棟端飾瓦のうち瓦屋・瓦師等の銘文をもつ瓦は28点を数える（第1表）。これらの瓦屋・瓦師をまとめると大きく以下のようになる。

1．「和州十市郡二ノ口村かわらや権兵へ」・「同拗四郎　八右衛門子」（多観音堂）や「瓦工新口村　槌屋傳兵衛」（安楽寺）の銘文をもつ新口村の工人

2．「瓦屋（ヤ）富吉（とめきち）才工人（才工）」（教安寺・津島神社・楽田寺）・「三己（わ）町　瓦や善四郎内富吉才工」（津島神社）などの銘文をもつ田原本三輪町の工人

3．「八百村（中略）堀内氏作」（鏡作神社）の工人

4．「今里村　瓦師半七」（鏡作神社）の工人

このほか、「細工人米川冂冂」（津島神社）[10]については、田原本町新町の可能性がある。また、「佐半次」・「邑瓦佐（サ）」・「田瓦半」銘の工人については、その所在地が特定できないものもある。

1つ目の新口村の工人である「和州十市郡二ノ口村かわらや権兵へ」「宝永六（1709）」と「瓦工新口村　槌屋傳兵衛」「宝暦九（1759）」「安永八・九（1779／1780）」については、50年・20年の時期差が認められるが、同一の瓦屋の可能性が高いであろう。この「二ノ口」・「新口村」は橿原市新ノ口に比定でき、これらの一群の瓦は、多神社・安楽寺の他にも「槌屋傳兵衛」と思われる銘をもつ棟端飾瓦が秦楽寺南側の拝殿風建物（田原本町秦楽寺）や遂休寺（田原本町薬王寺）、浄教寺（三笠）に存在しており、田原本町南部を中心に供給されたようである。

2つ目の「瓦屋（ヤ）富吉（とめきち）才工人（才工）」銘をもつ棟端飾瓦は、天保十年（1839）から嘉永四年（1851）の12年間にみられる。その筆跡は同じであり、瓦の作風も類似していることから同一工人と考えて間違いないであろう。また、津島神社の嘉永元年（1848）の祈願・呪文紋瓦4・5には「瓦屋善四郎　内富吉才工」の銘があり、この「瓦屋善四郎」は中西氏の調査によれば田原本町五軒町村田東平家東棟の棟端飾瓦にも正徳四年（1714）の「瓦屋善四郎」銘が存在してい

第1表　棟端飾瓦　銘文一覧表

瓦番号	所在	西暦	紀年名	瓦屋・瓦師銘等
鬼面瓦5	多観音堂	1663	「寛文三年」	「大路堂村」
鬼面瓦14	善照寺	1703	「元禄十六年　未九月吉祥」	「藤原正重」「和州阿倍村瓦屋庄治郎作」
鬼面瓦6	多観音堂	1709	「宝永六年　丑ノ七月吉日」	「多村ニノ口瓦や八兵衛門子　権兵へ　勘四郎」
鬼面瓦18	佛光寺	1747	「延享四年卯ノ二月日」	「佐平次」
鬼面瓦3	多神社	1759	「寶暦九巳卯歳　三月吉日」	「瓦工新口村　樋屋傳兵衛」
隅蓋瓦2	鏡作神社	1768	「明和五子年」	「八百村堀内兵作」
鬼面瓦15/16	善照寺	1762	「宝暦十弐年八月吉」	「大かい惣兵衛」/「大かい惣兵へ」
平瓦	興福寺	1762	「宝暦十二壬午歳」	「瓦工和州式下郡今里邑平七」
鬼面瓦8	安楽寺	1779	「巳安永八年　亥十月吉日」	「新口村瓦工　樋屋傳兵へ」
鬼面瓦9	安楽寺	1780	「安永九年　庚子三月日」	「新口村瓦工　樋屋傳兵衛」
隅蓋瓦1	楽田寺	1839	「天保十 己亥十月 吉日」	「田原本 三輪町 瓦や 富吉 細工人」
鬼面瓦20	教安寺	1845	「弘化二巳十一月吉日」	「田原本 三己（わ）町かわらやとめきち才工」
隅蓋瓦3	教安寺	1845	「弘化二己十月吉日」	「田原本 三輪町瓦屋富吉才工人」
祈願・呪文紋瓦4	津島神社	1848	「嘉永元　申十月日」	「三輪甲（町）　瓦屋善四郎　内富吉才工」
祈願・呪文紋瓦5	津島神社	1848	「嘉永元　申十月日」	「三己（わ）町　瓦や善四郎内富吉才工」
祈願・呪文紋瓦7	津島神社	1848	「嘉永元年　申十月」	「瓦サ」
祈願・呪文紋瓦10	楽田寺	1851	「嘉永四亥四月日」	「田原本 三己（わ）町　瓦や富吉才工」
祈願・呪文紋瓦11	中谷家	1851	「嘉永四年亥五月日」	「田原本 三己（わ）町瓦や富吉才工」
祈願・呪文紋瓦12	中谷家	1851	「嘉永四年亥五月日」	「田原本三己（わ）町瓦や富吉才工」
祈願・呪文紋瓦3	津島神社	1866	「慶応二寅年」	「南都細工人米川□□」「村森田新七寄進」
鬼面瓦4	多神社			「田瓦平（箱隅押判）」
鬼面瓦7	多観音堂			「和州十市郡ニノ口村かわらや権兵へ」「多村くわんせ御堂　同勘四郎　八右衛門子」
祈願・呪文紋瓦2	津島神社			「南都細工人米川□□」「瓦平きしん」
祈願・呪文紋瓦6	津島神社			「邑瓦サ」「邑」
祈願・呪文紋瓦8	津島神社			「邑瓦佐」
鬼面瓦13	鏡作神社			「今里村　瓦師平七」
鬼面瓦23	大念寺		「うノ二月日」	「大安寺村」

第2表 「堀内」銘をもつ瓦製狛犬・露盤等〔奈良文化財同好会1987に加筆作成〕

製品名	所在地	銘文	西暦
露盤	石橋家 磯城郡田原本町宮古	宝暦十四 申五月 八百村町堀内文右門	1764
瓦製狛犬	杵築神社 天理市南六條町	八百堀内氏作 明和四亥年	1764
隅蓋瓦	鏡作神社 磯城郡田原本町八尾	八百村 明和五子年 堀内氏作	1767
瓦製狛犬	巌島神社 大和高田市口ノ出東本町	明和六年 式下八百村 堀内氏作	1768
瓦製狛犬	白坂神社 大和郡山市白土町	八百村堀内作 明和八卯年	1771

る。このことから、「瓦屋善四郎」は屋号であり134年間数代にわたって田原本三輪町に瓦屋が存続し、寺内町を構成する津島神社や楽田寺、周辺の民家に瓦を供給していたことがわかる。

3つ目の「八百村（中略）堀内氏作」は、田原本町八尾にあった瓦屋で、八尾の鏡作神社のほか杵築神社（天理市）・巌島神社・白坂神社（大和高田市）の瓦質狛犬に同様の銘文が認められ[12]、実見した杵築神社（天理市）の瓦質狛犬の銘文はヘラ描きの筆跡も類似する。また、宮古石橋家所蔵の「唐人」銘露盤には「八百村町堀内文右門」の名があり、宝暦十四年（1764）の作であることが明らかになっている[13]。このように1764年から1771年の間に集中していることから、同一の作者の可能性が高い（第2表）。

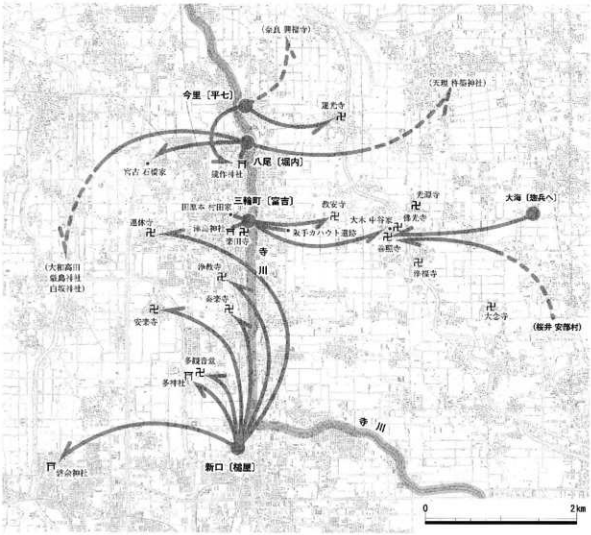
「今里村 瓦師平七」銘は、「宝暦十二壬午歳」（1762）の銘文をもつ興福寺の平瓦にみられることから、製作の定点となる。この「今里村 瓦師平七」銘は、法貴寺蓮光寺の鬼面瓦にもあり、その近在に瓦を供給していたことが知れる。

さらに「新口村」・「今里」という銘文も、杵築神社・夜都伎神社（天理市）・御櫛神社（平群町）の瓦製狛犬の類例がみられ（第3表）[14]、田原本周辺の瓦屋・瓦師が近在だけでなく広範囲にわたって活動していたと想定できる。

第3表 「新口村」・「今里」銘をもつ狛犬〔奈良文化財同好会1987に基づき作成〕

製品名	所在地	銘文	西暦
瓦製狛犬	杵築神社 天理市上ノ庄町	天保二卯六月吉日 今里南 瓦清ノ是南瓦 清五郎	1831
瓦製狛犬	夜都伎神社 天理市乙木町	天明四甲辰歳三月吉日 十市郡新口村 人形屋治助作	1784
土製狛犬	御櫛神社 平群町椋原	寛政五年丑十二月吉日 十市郡新口村 福屋□□作	1793

さて、「新口村」・「田原本三輪町」・「八百」・「今里村」に所在したこれら工人の工房が、寺川沿いに分布していることは注目される。おそらく、薪や粘土の原料から製品の流通に寺川の水運が大きな役目を果たしていたのであろう。また、小林氏の教示によれば、水運を利用した資材や瓦の運搬のほか、瓦の製作には燻し焼きするために大量の水が必要とされ、河川に近在して焼成窯が築造された可能性があるという。これまで田原本町内では、江戸時代の瓦屋を発掘した例はないが、窯の構造や技術とあわせて今後の課題である。



第29図　瓦の製作地とその供給先（S＝1/40,000）

このようにみてくると、近世田原本周辺の瓦生産が活発な経済活動になっていたことが類推でき、近世田原本が「大阪の堺」といわれていたことも首肯できるのである。近世の棟端飾瓦は、現在でも社寺や民家の屋根に葺かれている例も多く、これまで考古学的な研究対象となり難かった。ただし、こうした資料には紀年や瓦屋・瓦師の銘文をもつ例も少なくなく、その編年や生産・流通の問題を考える上で、多くの情報をもっている。本稿の報告した棟端飾瓦は、田原本町内のごく一部の資料であるが、今後、町内や周辺地域において資料の蓄積が図られることによってより広範な地域における変遷と地域性、生産・流通の問題が提起されることを期待したい。

最後に、今回の報告は中西秀和氏の調査の成果がなければ為し得なかったものであり、改めてお礼申し上げます。また、中谷義弘氏には資料の提供を快諾して頂きました。棟端飾瓦の観察では故・小林章男氏、銘文の解読は谷山正道先生（天理大学教授）から多くの教示を得ました。また、作図に当たっては、奥谷知日朗氏の協力があり、重ねてお礼申し上げます。

註

1）清水琢哉1999「多遺跡 第18次調査」『田原本町文化財調査年報8　1998年度』

2）清水琢哉・奥谷知日朗2009「寺内町遺跡 第10次調査」『田原本町文化財調査年報17　2007年度』

3）清水琢哉・奥谷知日朗2009「法貴寺遺跡 第6次調査」『田原本町文化財調査年報17　2007年度』

4）清水琢哉・河森一浩・奥谷知日朗・豆谷和之2009「法貴寺遺光寺の総合的調査」『田原本町文化財調査年報17　2007年度』

6）河森一浩・藤田三郎2008『瓦に込めた願い －田原本の瓦づくりと民間信仰　』唐古・鍵考古学ミュージアム平成20年度春季企画展

7）小林章男1985「生きている鬼瓦」『歴根叢書4』

8）小林章男1991『続 鬼瓦』共同精版印刷株式会社

9）小林章男1999「裏から戦いた鬼瓦」日本鬼師の会・山田脩二『鬼文化江戸東京物語展』

10）小林章男2004「鬼瓦読本」日本鬼師の会

11）医王寺（田原本町宮森）には、「南部細工人米義作　新町瓦屋平四郎」銘をもつ棟端鐘瓦がみられる。

12）奈良文化財同好会 狛犬の会1987『狛犬の研究　奈良市周辺の狛犬』

13）石橋源一郎「謎の唐人を追って－田原本中郷土研究部の活動記録」『歴史地理教育』532号　1995

14）12）に同じ。

〈参考文献〉

田原本町史編さん委員会1986『田原本町史　本文編』

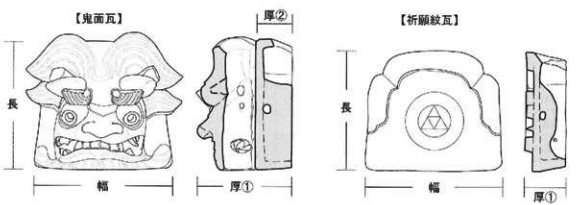
■ 棟端飾瓦観察表　凡例■

1．本表は、本文で紹介した棟端飾瓦の観察表である。

2．「法量」は「長」・「幅」・「厚①」・「厚②」についてはcmを、「重量」についてはkgを単位とする。

3．「法量」の計測箇所はで下図のとおりである。このうち鬼面瓦については、貼り付けた鬼面顔部が母屋台部をはみ出す例もあるが、母屋台部の最大長を「長」・「幅」とする。また「厚①」は、鬼面瓦における角・額・鼻での最大厚をさし、その部位を表記する。なお、隅蓋瓦については、獅子・鬼の最大高を「長」、最大幅を「幅」とする。

4．「孔」は、「母屋台部」や「補立」、「側張」における孔の有無を示し、三日月形の穿孔については縦・横の長さを、円形孔については直径を示す。単位はcmである。



法量の計測箇所

第4表　棟端飾瓦　観察表

瓦番号	図版	所在	設置位置	形態			表面		鬼面		裏面		色調 焼成	備考
				鰭	鰭足元	上端刳切込	落張	文様等	阿吽	鬚張	補立	把手		
鬼面瓦1	第4図	多神社	拝殿		×	×	×		阿	b類	×	a類	黒灰 良好	合子型
鬼面瓦2	第5図			×	×	×	×		阿	b類	×	a類	黒灰 良好	合子型
鬼面瓦3	第6図			×	×	×	×	連珠貼付	吽	c類	×字形	a類	暗灰 良好	
鬼面瓦4	第7図			×	×	○	×		吽？	c類	縦位	c類	黒灰 良好	
鬼面瓦5	第8図上	多観音堂	本堂	×	×	×	×	連珠竹管	阿	b類	×	a類	黒灰 良好	合子型
鬼面瓦6	第8図中		本堂	×	×	×	×	連珠竹管	吽？	b類	×	a類	淡黄灰 やや甘	合子型
鬼面瓦7	第8図下		本堂	×	×	×	×	連珠竹管	吽？	b類	×	a類	淡黄灰 やや甘	合子型
鬼面瓦8	第9図上 第10図上	安楽寺	本堂	○	×	○	×	連珠貼付	吽	c類	×	a類	暗～淡灰 良好	下半に合子型
鬼面瓦9	第9図下 第10図下		本堂	×	×	○	×	連珠貼付	阿	c類	×	a類	黒～暗灰 良好	
鬼面瓦10	第11図	津島神社	拝殿	×	×	○	×		吽	b類	×	a類	黒灰 良好	隅降棟瓦
鬼面瓦11	第12図上		拝殿	×	×	○	×		吽	b類	×	a類	暗黄灰 良好	降棟瓦　合子型
鬼面瓦12	第12図下		社務所	○	○	○	×	獅子	阿？	c類	×	b類	黄灰 良好	隅降棟瓦
祈願・呪文紋瓦1	第13図上		拝殿	○	○	○	○	蛸	−	c類	縦位	c類	暗灰 良好	棟飾瓦
祈願・呪文紋瓦2	第13図中			○	×	○	○	巴紋	−	c類	×	b類	黒灰 良好	隅降棟瓦
祈願・呪文紋瓦3	第13図下			×	×	○	○	二巴紋	−	c類	縦位	c類	暗灰 良好	
祈願・呪文紋瓦4	第14図上		社務所	○	×	×	○	五瓜に唐花	−	c類	×	b類	暗灰 良好	大棟瓦
祈願・呪文紋瓦5	第14図下			○	×	○	×	五瓜に唐花		c類	×	b類	暗灰 良好	隅降棟瓦
祈願・呪文紋瓦6	第15図上			○	×	○	○	五瓜に唐花	−	c類	×	b類	黒灰 良好	降棟瓦
祈願・呪文紋瓦7	第15図下			○	×	○	○	五瓜に唐花	−	c類	×	b類	暗灰 良好	降棟瓦
祈願・呪文紋瓦8	第16図上			○	×	○	○	五瓜に唐花	−	c類	×	b類	黒灰 良好	隅降棟瓦
祈願・呪文紋瓦9	第16図下			○	×	○	○	梵字	−	c類	×	b類	黒灰 良好	隅降棟瓦
祈願・呪文紋瓦10	第17図上	乗円寺	鐘楼門	○	×	○	×	[illegible]		c類	×	b類	暗灰 良好	
隅蓋瓦1	第17図下		鐘楼門	−	−	−	−	獅子	−	−	−	−	黒灰 良好	
鬼面瓦13	第18図上	諏訪神社	旧堂	○	×	○	×	連珠貼付	阿	c類	十字形	c類	暗灰 良好	当て具痕
隅蓋瓦2	第18図下		旧堂	−		−	−	鍾馗	−	−		−	暗灰 やや甘	
鬼面瓦14	第19図		本堂	○	打欠？	○	×	連珠竹管	阿	c類	×	a類	暗灰 良好	合子型
鬼面瓦15	第20図上	普照寺	本堂	×	×	×	×		阿	c類	×	b類	暗灰 良好	
鬼面瓦16	第20図下		本堂	×	×	×	×		吽	c類	×	b類	暗灰 良好	
鬼面瓦17	第21図下		本堂	○	×	×	○		阿	c類	×	b類	暗～淡灰 良好	
鬼面瓦18	第22図上	佛光寺	東表	○	○	○	○		吽	c類	×	a類	暗灰 良好	
鬼面瓦19	第22図下 第23図		東裏	○	×	○	×		吽？	c類	筋状5本	a類	黒灰 良好	右肩にとビ鰭飾
鬼面瓦20	第24図	教安寺	本堂	×	×	×	×		阿？	c類	×	b類	暗灰 良好	
隅蓋瓦3	第25図			−	−	−		獅子	吽？	−	−		暗灰 良好	
鬼面瓦21	第26図上	浄福寺		○	打欠？	○	○		吽？	b類	×	a類	暗～淡灰 やや甘	合子型
鬼面瓦22	第26図中	光源寺		×	×	×	×		吽	c類	×	b類	黒灰 良好	当て具痕
鬼面瓦23	第26図下	大念寺		×	×	×	×		吽	c類	×	a類	黒灰 良好	
祈願・呪文紋瓦11	第27図上	市谷家	納屋	○	○	○	×	菊花	−	c類	×	b類	黒灰 良好	
祈願・呪文紋瓦12	第27図下		納屋	○	○	○	×	牡丹	−	c類	×	b類	黒灰 良好	
平瓦	第28図	興福寺	南門堂	−	−	−	−	−	−	−	−		暗灰 良好	

瓦番号	銘文部位	銘文	法量					把手孔・孔		
			長	幅	厚①	厚②	重量	台部	袖立	側面
鬼面瓦1			30	32	鼻：14.5	4	6.3	縦7.2・横4.7 縦8.3・横5.2	—	—
鬼面瓦2			37.8	30.5	額：20.5	6.5	10.1	縦9.6・横4.4 縦10.4・横4.2	—	—
鬼面瓦3	左側面	「瓦工新口村 樋屋傳兵衛」	44.9	43.7	角：28.3	12.8	15.5	縦6.0・横6.0	—	—
	右側面	「寛延九じ卯歳 三月吉日」								
鬼面瓦4	隅屋表面右下	「瓦平（箱岡押印）」	34.5	34	鼻：23.5	9.2	13.2	直径1.6 直径3.0	直径1.5	—
鬼面瓦5	左側面	「寛文三年大路堂村」	26.8	残27.0	鼻：16.0	5.4	2.8	縦9.3・横4.8	—	—
鬼面瓦6	左側面	「宝永六年丑ノ七月吉日」	28.8	29.7	角：14.5	3.5	3.8	縦7.4・横4.4 縦7.6・横3.2	—	—
	右側面	「多村二ノ口瓦や八兵衛門子 権兵へ 助四郎」								
鬼面瓦7	右側面	「紀州上市郡二ノ口村かわらや権兵へ」	28.8	30	角：15.5	4.1	3.8	縦6.9・横4.3 縦7.3・横3.2	—	—
	左側面	「多村くわんせ宝書 同義四郎 八右衛門子」								
鬼面瓦8	右側面	「安永九天（年） 庚子三月日」	39.5	45.9	額：23.5	9.7	11.2	縦7.2・横2.3 縦5.2・横3.6	—	—
	左側面	「新口村瓦工 樋屋傳兵衛」								
鬼面瓦9	左側面	「日安永八年 亥十月吉日」	33.5	50.5	角：23.4	10.8	14	縦5.9・横2.2 縦6.8・横4.2	—	
	右側面	「新口村瓦工 樋屋傳兵へ」								
鬼面瓦10			29.7	30.3	額：15.0	4.8	6.2	縦4.0・横1.2	—	
鬼面瓦11			30.4	30.2	鼻：16.2	5.2	7.5	縦5.0・横3.6 縦6.2・横2.8	—	
鬼面瓦12			27.2	38.5	額：15.0	7.5	4.8		—	-
祈願・呪文紋瓦1			43.5	62.5	10.5	8.5	9.2		直径2.0	—
祈願・呪文紋瓦2	左側面	「南都細工人米川□□」	23.1	41.2	12	9	5.1			—
	右側面	「五平きしん」								
祈願・呪文紋瓦3	左側面	「慶応二寅年」	30.2	34.2	10		6.4	—	—	直径0.7
	右側面	「南都細工人米川□」								
	表面	「村 森山新七 寄進」								
祈願・呪文紋瓦4	左側面	「三輪田丁（町） 瓦屋善四郎 内富吉オ工」	29.5	42.6	14.2		7.6	—	—	
	右側面	「嘉永元 申十月日」								
祈願・呪文紋瓦5		「三 己(わ)町 瓦ヤ善四郎 内富吉 オ工」	27	43.2	10.7		4.2		—	
		「嘉永元 申十月日」								
祈願・呪文紋瓦6	左側面	「邑 瓦 サ」	24.5	46.8	11.3		5.9			—
	右側面	「□」								
祈願・呪文紋瓦7	左側面	「瓦サ」	24.8	45	11.4		5.8			—
	左側面	「嘉永元年 申十月」								
祈願・呪文紋瓦8	左側面	「□瓦作」	23.3	44.4	11.2		[illegible]	—		—
祈願・呪文紋瓦9			27.6	57	9.8		6.6	—	—	—
祈願・呪文紋瓦10	右側面	「田原本三己(わ)町 瓦ヤ富吉オ工」	21.2	37.8	鼻：14.6	8.2	4.7	—	—	—
	左側面	「嘉永四亥四月日」								
隅蓋瓦1	背面	「田原本三輪町 瓦ヤ 富吉 細工人 天保十 己亥十月 吉日」	31.4	23.5			4.8	—	—	—
鬼面瓦13	右位置	「今里村 瓦師平七」	36.8	61.8	角：30.7	6.6	15	—	直径1.5	直径1.0
隅蓋瓦2	背面	「八尾村 明和五子年 瀬内氏作」	29.8	12.8			3.6	—	—	—
鬼面瓦14	左側面	「元禄十六年 藤原正乗」	27.8	45.5	額：20.4	7.1	6.2	縦10.0・横7.5 縦9.8・横5.2		—
	右側面	「和州安倍村 瓦屋 宗治郎作」								
	上面	「未九月吉祥日」								
鬼面瓦15	右側面	「宝暦十弐午八月三」	25.7	31.6	角：21.0	7.5	6	—	—	—
	左側面	「人かい惣兵へ」								
鬼面瓦16	右側面	「宝暦十弐午八月日」	28.3	31.4	角：20.6	8.5	6.4	—	—	—
	左側面	「人かい惣兵衛」								
鬼面瓦17			32.4	45.2	額：18.9	7.1	8.6	—	—	—
鬼面瓦18			39.5	50.5	角：22.4	6.7	11.2	—	—	
鬼面瓦19	左側面	「延享四年 卯ノ二月日」	38.5	58.2	鼻：23.7	9.5	18.5		—	
	右側面	「瓦作平次」								
鬼面瓦20	左側面	「弘化二巳十一月吉日」	28.5	40	角：26.4	8.5	8.9			直径0.6
	右側面	「田原本三己(わ)町 かわらやとめきち オ工」								
隅蓋瓦3	右側	「田原本三輪町 瓦屋 富吉 オ工人」	36.8	27.5			12.5	—		—
	左側	「弘化二巳十月 吉日」								
鬼面瓦21			27.5	48.7	額：16.2	6.5	7.4	縦9.0・横5.7 縦7.2・横5.0		—
鬼面瓦22			25.1	27.8	額：17.5	6.4	5.3	—	—	—
鬼面瓦23	左側面	「大安寺村 うノ三月日」	21.1	30.9	額：20.4	7.2	5.6	縦5.5・横5.5 縦5.5・横3.6	—	—
祈願・呪文紋瓦11	左側面	「嘉永四 亥六月日」	27.5	42	12	9	4.9	—	—	—
	右側面	「田原本三 己(わ)町 瓦ヤ富吉オ工」								
祈願・呪文紋瓦12	左側面	「嘉永四 亥六月日」	28.5	41.3	13.4	9	4.8	—	—	—
	右側面	「田原本三 己(わ)町 瓦ヤ富吉オ工」								
平瓦	凹面中央	「宝暦十二壬午歳」	45.7	残25.5	2.8		8.2	—	—	—
	凹面右下	「瓦工 和州式下郡 今里邑平七」								

田原本町文化財調査年報19
2009年度

平成23年３月30日

編集発行　田原本町教育委員会
印　　刷　株式会社 アイプリコム